

# 2020 年 IEEE 関西支部 総会資料

2020 年 2 月 27 日  
IEEE 関西支部

## 総会資料目次

I.	2020 年関西支部役員・理事	1
II.	2020 年 KANSAI CHAPTER 役員	6
III.	2020 年関西支部 STUDENT BRANCH 役員	8
IV.	2019 年 活動報告 および 2020 年活動計画	10
V.	関西支部会員数	46
VI.	2019 年 会計報告	48
VII.	2020 年 予算	50
VIII.	受賞者	53
	参考情報	55



## 2020 年 IEEE 関西支部総会 プログラム

1. 日時:2020 年 2 月 27 日(木) 14 時 00 分～17 時 30 分
2. 場所: 関電会館  
〒530-8270 大阪市北区中之島 3 丁目 6 番 16 号 関電ビルディング 4 階
3. 総会スケジュール
  1. 役員・理事紹介
  2. 2019 年活動報告および 2020 年活動計画
  3. 2019 年会計報告および 2020 年予算
  4. Bylaws 改定  
<休憩>
  5. Chapter 役員および活動紹介  
<休憩>
  6. IEEE 関西支部 Young Professionals 賞
  7. IEEE 関西支部学生研究奨励賞授賞式
  8. IEEE 関西支部メダル授賞式(新 Senior Members)
  9. IEEE 関西支部メダル授賞式(歴代貢献者)
  10. IEEE 関西支部新 Fellow 紹介
  11. 閉会の挨拶



## I. 2020年関西支部役員・理事

### 1. 役員 (Section Officers)

Chair:	杉江 俊治	(京都大学名誉教授)
Vice Chair:	梅田 信雄	(関西電力)
Secretary:	西村 和敏	(関西電力)
Treasurer:	橋本 直哉	(関西電力)

### 2. 理事 (Committee Chairs)

MDC Chair:	佐藤 高史	(京都大学)
NC Chair:	畑 豊	(兵庫県立大学)
SAC Chair:	福水 洋平	(立命館大学)
TPC Chair:	西浦 敬信	(立命館大学)
AC Chair:	伊野 文彦	(大阪大学)
COC Chair:	戸出 英樹	(大阪府立大学)

### 3. 理事 (Affinity Group Chairs)

LMAG Chair:	中村 行宏	(京都大学名誉教授)
WIE AG Chair:	上田 悦子	(大阪工業大学)
YP AG Chair:	伊原 彰紀	(和歌山大学)

### 4. 理事 (Past Officers)

Past Chair:	山本 幹	(関西大学)
-------------	------	--------

### 5. 理事 (Past Committee Chair)

Past MDC Chair:	福井 正博	(立命館大学)
Past SAC Chair	川村 新	(京都産業大学)
Past TPC Chair	田邊 信二	(三菱電機)
Past AC Chair	土屋 達弘	(大阪大学)
Past COC Chair	梶川 嘉延	(関西大学)

### 6. (Observer)

次期事務局候補	松居 真一	(パナソニック)
次期事務局候補	石田 達朗	(パナソニック)

## 7. Committee Officers

### a. Membership Development Committee

Chair:	佐藤 高史	(京都大学)
Secretary:	新谷 道広	(奈良先端科学技術大学院大学)
Member:	奥田 武夫	(オムロン)
	中村 孝夫	(住友電気工業)
	浅井 明	(パナソニック)
	酒井 啓之	(日本電信電話)
	満仲 健	(シャープ)
	貝原 俊也	(神戸大学)
	太田 快人	(京都大学)
	小林 浩	(三菱電機)
	中島 重義	(大阪市立大学)
	木村 啓明	(ローム)
	尾原 郁夫	(京セラ)
	加藤 貴敏	(村田製作所)
	柏 卓夫	(古野電気)
	八木 直美	(姫路獨協大学)

### b. Nominations Committee

Chair:	畑 豊	(兵庫県立大学)
Member:	白川 功	(兵庫県立大学)
	石渕 久生	(南方科技大学)
	田畑 修	(京都先端科学大学)

### c. Student Activities Committee

Chair:	福水 洋平	(立命館大学)
Member:	木村 達明	(大阪大学)
	辺 松	(京都大学)
	和泉 慎太郎	(神戸大学)
	加藤 恒夫	(同志社大学)
	市川 昊平	(奈良先端科学技術大学院大学)
	磯川 悌次郎	(兵庫県立大学)
	宝田 隼	(関西大学)
	木原 崇雄	(大阪工業大学)
	澤田 祐一	(京都工芸繊維大学)
(Student Representative)	小野 龍輝	(京都大学)

#### d. Technical Program Committee

Chair:	西浦 敬信	(立命館大学)
Vice Chair:	上田 哲三	(パナソニック)
Secretary:	福森 隆寛	(立命館大学)

#### e. Awards Committee

Chair:	伊野 文彦	(大阪大学)
Member:	飯田 元	(奈良先端科学技術大学院大学)
	和泉 慎太郎	(神戸大学)
	太田 能	(神戸大学)
	太田 正哉	(大阪府立大学)
	黒江 康明	(京都工芸繊維大学)
	杉原 英治	(大阪大学)
	杉原 浩平	(三菱電機)
	杉山 久佳	(大阪市立大学)
	野口 拓	(立命館大学)
	林 和則	(大阪市立大学)
	村田 英一	(京都大学)
	山田 晃久	(モリタホールディングス)
	林 海	(大阪府立大学)
	和田 友孝	(関西大学)

#### f. Chapter Operations Committee

Chair:	戸出 英樹	(大阪府立大学)
Secretary:	藤本 章宏	(和歌山大学)
Member:	吉本 昌広	(京都工繊大)
	中島 雅逸	(ソシオネクスト)
	小西 啓治	(大阪府立大学)
	出口 博之	(同志社大学)
	和田 友孝	(関西大学)
	吉岡 康介	(パナソニック)
	真田 篤志	(大阪大学)
	加藤 友章	(日本電気)
	中谷 智広	(日本電信電話)
	西村 良太	(徳島大学)
	鷹羽 浄嗣	(立命館大学)
	平木 英治	(岡山大学)
	戸川 欣彦	(大阪府立大学)

#### g. Life Members Affinity Group

Chair:	中村 行宏	(京都大学名誉教授、元京都大学)
Vice Chair:	小林 正明	(元三菱電機)
Vice Chair:	森田 修三	(元富士通)
Vice Chair:	櫛木 好明	(元パナソニック)
Secretary:	平野 和夫	(元住友電気工業)
Secretary:	杉本 繁	(元パナソニック)

#### h. WIE (Women in Engineering) Affinity Group

Chair:	上田 悦子	(大阪工業大学)
Vice Chair:	崔 恩濤	(京都工芸繊維大学)
Vice Chair:	松川 真美	(同志社大学)
Secretary:	熊木 武志	(立命館大学)
Treasurer:	辻川 美沙貴	(パナソニック)

i. YP (Young Professionals) Affinity Group

Chair:	伊原 彰紀	(和歌山大学)
Vice Chair:	佐藤 丈博	(京都大学)
Secretary/Treasurer:	岩居 健太	(立命館大学)
Member:	和泉 慎太郎	(大阪大学)
	佐藤 伸吾	(関西大学)
	中才 太朗	(奈良先端科学技術大学院大学)
	田中 亜実	(立命館大学)
	塩見 準	(京都大学)
	檜作 彰良	(立命館大学)

## II. 2020年 Kansai Chapter 役員

### 1. EDS (Electron Devices Society) Kansai Chapter

Chair:	吉本 昌広	(京都工芸繊維大学)
Vice Chair:	渡辺 博文	(リコー)
Secretary:	西中 浩之	(京都工芸繊維大学)
Treasurer:	安藤 友一	(リコー)

### 2. SSCS (Solid State Circuits Society) Kansai Chapter

Chair:	中島 雅逸	(ソシオネクスト)
Vice Chair:	小林 和淑	(京都工芸繊維大学)
Secretary:	坂東 要志	(ソシオネクスト)
Treasurer:	西村 佳壽子	(パナソニック)
	新居 浩二	(フローディア)

### 3. CASS (Circuits and Systems Society) Kansai Chapter

Chair:	小西 啓治	(大阪府立大学)
Vice Chair:	武内 良典	(近畿大学)
Secretary:	藤田 玄	(大阪電気通信大学)
Treasurer:	木村 真之	(京都大学)

### 4. APS (Antennas and Propagation Society) Kansai Joint Chapter

Chair:	出口 博之	(同志社大学)
Vice Chair:	何 一偉	(大阪電気通信大学)
Secretary:	藤森 和博	(岡山大学)
Treasurer:	山岸 傑	(住友電気工業)

### 5. COMS (Communications Society) Kansai Chapter

Chair:	和田 友孝	(関西大学)
Vice Chair:	林 海	(大阪府立大学)
Secretary:	熊本 和夫	(大阪工業大学)
Treasurer:	東野 武史	(奈良先端科学技術大学院大学)

#### 6. CS (Computer Society) Kansai Chapter

Chair:	吉岡 康介	(パナソニック)
Vice Chair:	新谷 道広	(奈良先端科学技術大学院大学)
Vice Chair:	和田 敏裕	(三菱電機)
Secretary:	小西 一暢	(パナソニック)
Treasurer:	今川 隆司	(立命館大学)

#### 7. MTTS (Microwave Theory and Techniques Society) Kansai Chapter

Chair:	真田 篤志	(大阪大学)
Vice Chair:	檜橋 祥一	(摂南大学)
Secretary:	堀口 健一	(三菱電機)
Secretary:	河合 正	(兵庫県立大学)
Treasurer:	三谷 友彦	(京都大学)
	石野 祥太郎	(古野電気)

#### 8. PHOS (Photonics Society (formerly LEOS)) Kansai Chapter

Chair:	加藤 友章	(日本電気)
Vice Chair:	小西 毅	(大阪大学)
Secretary:	戸田 裕之	(同志社大学)
Treasurer:	大和屋 武	(三菱電機)

#### 9. SPS (Signal Processing Society) Kansai Chapter

Chair:	中谷 智広	(日本電信電話)
Vice Chair:	中村 哲	(奈良先端科学技術大学院大学)
Secretary:	木下 慶介	(日本電信電話)
Treasurer:	藤本 雅清	(情報通信研究機構)

#### 10. CES (Consumer Electronics Society) West Japan Joint Chapter

Chair:	西村 良太	(徳島大学)
Vice Chair:	Thi Thi Zin	(宮崎大学)
Vice Chair:	後藤 富朗	(名古屋工業大学)
Secretary/Treasurer:	長谷 智弘	(龍谷大学)

### 11. CSS (Control Systems Society) Kansai Chapter

Chair:	鷹羽 浄嗣	(立命館大学)
Vice Chair:	大塚 敏之	(京都大学)
Secretary:	丸田 一郎	(京都大学)
Treasurer:	桜間 一徳	(京都大学)

### 12. IES (Industrial Electronics Society) Japan Joint Chapter

Chair:	平木 英治	(岡山大学)
Vice Chair:	笠 展幸	(岡山理科大学)
Secretary:	梅谷 和弘	(岡山大学)
Treasurer:	麻原 寛之	(岡山理科大学)

### 13. MAG (Magnetic Society) Kansai/Shikoku Joint Chapter

Chair:	戸川 欣彦	(大阪府立大学)
Vice Chair:	平岡 耕一	(愛媛大学)
Secretary:	藤枝 俊	(大阪大学)
Treasurer:	宍戸 寛明	(大阪府立大学)

## III. 2020 年関西支部 Student Branch 役員

### 1. 大阪大学 (<http://www-ise2.ist.osaka-u.ac.jp/ieee/>)

Counselor:	尾上 孝雄	(大阪大学)
Mentor:	藤田 玄	(大阪電気通信大学)
Chair:	北川 玲音	大学院情報科学研究科 情報システム工学専攻
Vice Chair:	岸 楓馬	大学院情報科学研究科 情報システム工学専攻
Treasurer:	廣田 裕亮	大学院情報科学研究科 情報システム工学専攻
Secretary:	吉本 丈	大学院情報科学研究科 情報システム工学専攻

### 2. 京都大学 (<http://ieee.kuee.kyoto-u.ac.jp/>)

Counselor:	辺 松	(京都大学 情報学研究科)
Mentor:	近村 啓史	(株式会社フィックスターズ)
Chair:	中村 公暉	情報学研究科
Vice Chair:	松田 崇史	情報学研究科
Treasurer:	小野 龍輝	情報学研究科
Secretary:	永井 健太郎	情報学研究科

### 3. 立命館大学 (<http://www.ieee.se.ritsumei.ac.jp/J/main.html>)

Counselor:	孟 林	(立命館大学 准教授)
Chair:	浅井 勇樹	理工学研究科 電子システム専攻
Vice Chair:	西川 広記	理工学研究科 電子システム専攻
Treasurer:	奥田 幹太	理工学研究科 電子システム専攻
Secretary:	阿部 亮太	理工学研究科 電子システム専攻

### 4. 奈良先端科学技術大学院大学 (<http://ieee-sb-naist.github.io/>)

Counselor:	飯田 元	(奈良先端科学技術大学院大学)
Mentor:	井上 美智子	(奈良先端科学技術大学院大学)
Chair:	Niu Zhaofeng	先端科学技術研究科
Vice Chair:	Mutinda Faith Wavinya	先端科学技術研究科
Treasurer:	Douha N'guessan Yves-Roland	先端科学技術研究科
Secretary:	Douha N'guessan Yves-Roland	先端科学技術研究科

### 5. 兵庫県立大学 (<http://www.eng.u-hyogo.ac.jp/IEEEStudent/index.html>)

Counselor:	上浦 尚武	(兵庫県立大学 工学研究科 電子情報工学専攻)
Mentor:	中嶋 宏	(オムロン株式会社)
Chair:	山本 侃利	工学研究科 電子情報工学専攻
Vice Chair:	中津 康平	工学研究科 電子情報工学専攻
Treasurer:	山本 侃利	工学研究科 電子情報工学専攻
Secretary:	元木 康太	工学研究科 電子情報工学専攻

### 6. 関西大学 ([http://www2.kansai-u.ac.jp/ieee\\_sb/](http://www2.kansai-u.ac.jp/ieee_sb/))

Counselor:	梶川 嘉延	(関西大学 教授)
Mentor:	辻川 剛範	(日本電気 情報・メディアプロセッシング研究所)
Chair:	金山 祐太	理工学研究科システム理工学専攻
Vice Chair:	石倉 彰太郎	理工学研究科システム理工学専攻
Treasurer:	小手川 史晃	理工学研究科システム理工学専攻
Secretary:	吉川 碧	理工学研究科システム理工学専攻

### 7. 同志社大学 (<https://ccilab.doshisha.ac.jp/ieee/>)

Counselor:	高橋 康人	(同志社大学 准教授)
Chair:	菊池 淳文	大学院理工学研究科 電気電子工学専攻
Vice Chair:	蔭山 昌幸	大学院理工学研究科 情報工学専攻
Treasurer:	長山 尚史	大学院理工学研究科 電気電子工学専攻
Secretary:	大久保 拓海	大学院理工学研究科 情報工学専攻

## IV. 2019 年 活動報告 および 2020 年活動計画

### 1. 総括

#### 【2019 年活動報告】

関西支部創立より支部の運営に貢献してきた企業 6 社(日本電信電話、関西電力、シャープ、パナソニック、住友電気工業、三菱電機)に対して、2018 Supporting Friend Award of IEEE Member and Geographic Activities (MGA) の授与式を開催した。今後も引き続き産業界との連携を深め、活動の活性化をはかる。

LMAG、WIE、YP の各 Affinity Group の活動では、10 月に仙台において開催された MAW2019、Japan SYWL Workshop への LMAG、WIE、SB からの参加支援を行い、他支部との交流を深めた。WIE シンポジウム、SB による英語プレゼン大会、SB と LMAG 共同でのブレインストーミング大会等を継続開催する一方、NC によるシニアメンバー昇格に向けた講習会、YP による博士課程のキャリアを語る会など新たなイベントも企画・開催し、若手を中心とする活動の拡大、充実に努めた。

これらの結果、会員数は 2018 年まで減少傾向であったが、2019 年は増加に転じた。

#### 【2020 年活動計画】

2020 年は、引き続き Chapter 活動、Student Branch 活動、Affinity Group 活動にも積極的な支援を行い、活動の継続を図る。

### 2. 総会

#### 【2019 年活動報告】

2019 年 2 月 22 日(金)に中央電気倶楽部において、参加 65 名により 2019 年総会を開催。各 Committee、Chapter、Affinity Group から、2018 年の活動実績、2019 年の活動計画を報告。関西支部より 2018 年活動の総括、2018 年決算、2019 年予算を報告し承認された。

総会にあわせて、学生研究奨励賞授賞式、関西支部メダル授与式、新フェロー紹介を実施。

2019 年度は、上記に加え、IEEE President-Elect の名城大学 福田先生より、「IEEE 支部活動に期待すること」と題して特別講演を実施いただいた。また、関西支部創立から支部の運営に貢献してきた企業 6 社(NTT、関西電力、シャープ、パナソニック、住友電気工業、三菱電機)に対して、2018 supporting Friend Award of IEEE MGA の授与式を開催し、福田先生に記念の盾を授与いただいた。



学生研究奨励賞受賞者



関西支部メダル受賞者



Friend Award 授賞式



特別講演(福田先生)

**【2020 年予定】**

2020 年は 2 月 27 日(木)14:00~17:30 の予定で、定例総会を実施する。

**3. 理事会**

**【2019 年活動報告】**

第 1 回理事会 1 月 31 日(木)中央電気倶楽部 3 階 315 会議室(参加 19 名)

2019 年活動・予算計画の確認、関西支部総会準備

第 2 回理事会 2 月 22 日(金)中央電気倶楽部 5 階ホール(参加 20 名)

関西支部総会準備(段取り、資料の最終確認)

第 3 回理事会 5 月 29 日(水)中央電気倶楽部 3 階 315 会議室(参加 16 名)

第 1 回 JC 理事会報告、Bylaws 改定審議、新規活性化活動審議

第 4 回理事会 8 月 26 日(月)中央電気倶楽部 316 会議室(参加 14 名)

第 2 回 JC 理事会報告、2020 年 JC Section 支援申請審議、新規イベント準備状況

第 5 回理事会 12 月 18 日(水)中央電気倶楽部 315 会議室 (参加 16 名)

2020 年理事会体制について、2019 年 YP 賞、学生研究奨励賞承認

2020 年活動計画 ・2019 年会計報告/2020 年予算案

**【2020 年活動計画】**

総会 2020 年 2 月 27 日

2020 年は年間 5~6 回の理事会を計画する。

#### 4. 関西支部主催講演会

##### 【2019年活動報告】

Technical Program Committee (TPC)および LMAG、WIE、Young Professionals (YP) AGとの共同企画により、年間4回の見学会・技術講演会を開催した。詳細についてはTPCの項目に記載。

##### 【2020年活動計画】

2019年も年間5回程度の講演会を開催し、支部活性化を図る。

#### 5. Region 10 Meeting

##### 【2019年活動報告】

2019年3月2日(土)～3日(日)の日程でオーストラリアのメルボルンにおいて開催されたRegion 10 Meetingに、関西支部より杉江 Chairが参加、R10の活動報告と活動計画などの情報入手と交換に努めた。

##### 【2020年活動計画】

2020年3月7日～8日のR10 Meeting(Web Meetingにて実施)に、関西支部より例年通り参加し、R10の活動報告と活動計画などの情報入手と交換に努める。

#### 6. MAW / Japan SYWL Workshop

##### 【2019年活動報告】

2019年10月24日(木)～25日(金)に仙台において開催されたMAW 2019およびJapan SYWL Workshopに関西支部から学生1名、LMAGより1名、WIEより2名が参加。情報共有及びネットワークの構築を行った。

##### 【2020年活動計画】

2020年も、継続して活性化するため、Student/YP/WIE/LMAGについて上位組織で開催される活動への参加を積極的に支援する。

#### 7. 協賛会議

##### 【2019年活動報告】

- ・第6回電子デバイスフォーラム京都  
主催: (一社)日本電子デバイス産業協会(NEDIA)  
日時: 2019年10月31日(木)～11月1日(金)  
場所: 京都リサーチパーク(KRP)
- ・令和元年 電気関係学会関西連合大会  
主催: 電気学会 関西支部  
電子情報通信学会 関西支部  
映像情報メディア学会 関西支部  
電気設備学会 関西支部  
日時: 2019年11月30日(土)～12月1日(日)  
場所: 大阪市立大学杉本キャンパス

## 8. 情報発信

### 【2019 年活動報告】

関西支部 Web ページ

下記ホームページで、技術講演会の案内等情報発信した。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/>

電子メールの利用

総会、技術講演会、協賛会議、Fellow 推薦等の案内を関西支部ホームページへの掲載とあわせてメーリングリストの活用により、広く公告し情報発信に力を入れた。

### 【2020 年活動計画】

関西支部 Web ページ

関西支部のホームページで、各種情報を発信して、会員メリットの向上に努める。

Newsletter もタイムリーに発信をしていく。

電子メールの利用

総会、技術講演会、協賛会議、Fellow 推薦等の案内を関西支部ホームページへの掲載とあわせてメーリングリストの活用により、広く公告し情報発信に力を入れる。

### 【Newsletter の発行】

No.35(2019 年 3 月 8 日発行)：総会の様子、学生研究奨励賞の受賞者紹介、新 Senior メンバーの紹介、Friend Award 授賞式の様子、技術講演会等の開催情報を掲載。

No.36(2019 年 8 月 28 日発行)：YP 賞、学生研究奨励賞募集のお知らせ、技術講演会、WIE シンポジウム、シニアメンバーへの昇格のための勉強会・講演会の開催情報を掲載

## 各 Committee/Affinity Group からの報告

### a. Membership Development Committee

#### 【2019 年活動報告】

2019 年は、2 回の MDC&SAC&YP Joint Workshop を開催した。第 1 回を 5 月 17 日、第 2 回を 12 月 16 日に、いずれも新大阪で開催した。MDC、SAC、YP に参加している各委員の組織等を通じて IEEE 活動の利点を広く周知し、新卒者の学生会員から正会員への移行をスムーズに行わせるとともに、正会員からシニアへの移行を推進した。また、SAC や YP と連携し、大学院生を中心とした学生会員の増加に力を入れた。

2019 年 12 月 11 日現在、会員数は 2,211 名であり、昨年同時期と比べて 13 名の微増であった。会員数の減少を食い止めるためには Renew のし忘れを防ぐことが重要な課題である。従来から 10 月の Renew 時期にその旨のメールを配信していたが、2019 年より 5 月にも再度 Renew 案内メールを送信して更新を促した。また、シニアメンバーへのアップグレードを推進することを活動の中心として、アップグレード申請がスムーズとなるよう支援をしている。委員からの積極的な申請勧誘の結果、2019 年度は、1 月から 10 月までの昇格者が 20 名となった。2019 年より IEEE のアップグレード申請のための Web サイトが更新されたため、既に公開中の申請方法の邦訳をこれにあわせて新しくする予定である。また、Student member 入会手続きについても申請方法の邦訳を併せて公開し、Student member についても一層の増加を図る。

その他、2019 年から開始した新たな取り組みとして、IEEE Computer Society Kansai Chapter と連携し、同 Chapter が主催する 2 回の技術講演会(7 月 22 日、12 月 12 日開催)で IEEE ブースを設置し広報パンフレットおよびノベルティグッズを配布して会員勧誘を行った。また、11 月 13 日から 11 月 15 日に開催された電子情報通信学会デザインガイア 2019 においても、IEEE ブースを設置し IEEE の広報活動を行った。

#### 【2020 年活動計画】

2019 年は、新体制のもとで会員増に向けた活動を行う。これまでと同様に MDC/SAC/YP と連携しながら、特に Senior member と学生を中心とする若手の新規会員の増加に向けた活動を行う。

- ・ MDC/SAC/YP Joint Workshop を年 2 回(5 月頃、11 月頃)開催し、Committee 間の情報交換、連携を通して会員数増に向けた活動を行う。
- ・ ホームページにて Senior member へのアップグレード手続きの邦訳の公開、および申請サポートを通して、Senior member の一層の増加を目指す。
- ・ ホームページにて Student member の入会手続きに関する邦訳を公開し、Student member の一層の増加を目指す。
- ・ 学会や研究会における広報活動 (IEEE のポスターやパンフレットの配布等) により、IEEE への入会勧誘を行う。
- ・ 年 2 回の Renew 促進のメールを送信して Renew 忘れによる会員減を防止する。

## b. Nominations Committee

### 【2019 年活動報告】

2019 年 3 月 1 日締め切りの 2019 年 Fellow Nomination に際し、関西支部から数名の Fellow 推薦を行なった。その結果、2 名の Fellow 昇格となった。Fellow の数を増やすためには、Senior Member の数を増やす必要があるために、2019 年 9 月 30 日に IEEE シニアメンバーへの昇格のための勉強会・講演会を実施した。

### 【2020 年活動計画】

2020 年は、2020 年 3 月 1 日締め切りの 2020 年 Fellow Nomination に関して、関西支部内の現 Fellow に対し新 Fellow の推薦を依頼するとともに、現 Senior に対しても Nominee となることを勧める。更に、IEEE シニアメンバーへの昇格のための勉強会・講演会を実施する。

## c. Student Activities Committee

### 【2019 年活動報告】

SAC では、昨年に引き続き、学生会員の増強、学生会員の活動支援、等の活動を行った。

- (1) 既存 7 大学(大阪大学、京都大学、立命館大学、奈良先端科学技術大学院大学、兵庫県立大学、関西大学、同志社大学)の Student Branch (SB)を中心に、学生会員の増強、学生会員の活動支援、対外活動、SB 間の情報交換の促進、等の活動を行った。
- (2) MDC と SAC、YP と合同で Workshop を開催(5 月, 12 月)し、連携して会員の増強、YP 会員、女性会員を含めた活動支援、等の活動を行った。
- (3) 各 Student Branch の Chair を集め Student Branch Chair Meeting を開催した(5 月 19 日)。前期の活動状況や今後の活動計画について議論を行うとともに、互いに交流を深めた。
- (4) 今年度については、SB 研究交流会は開催を見送った。
- (5) SB 全体のイベントとして、立命館大学 English Presentation Competition を 10 月 11 日に実施した。優秀発表者に IEEE 関西支部 SAC および LMAG から表彰状を授与した。また、関西支部からの補助を受け、懇親会を実施した。
- (6) SB と LMAG との共同企画として同志社大学の主催でブレインストーミング大会を 11 月 24 日に立命館大学茨木キャンパスにて開催した。優秀発表者に IEEE 関西支部および LMAG から賞金を授与した。また、関西支部からの補助を受け、懇親会を実施した。
- (7) AC と連携して IEEE 関西支部学生研究奨励賞を企画し、審査を行った。詳細は Award Committee 報告の項を参照のこと。
- (8) 12 月 7 日に京都大学において、年末交流会(引継ぎ会)を実施し、各 SB の活動状況の報告および次年度の活動計画について議論した。

### 【2020 年活動計画】

- (1) Student Branch(SB)の設立

昨年に引き続き、学生会員の勧誘を進め、SB の設立に向け努力を継続する。既設の大阪大

学、立命館大学、京都大学、奈良先端科学技術大学院大学、兵庫県立大学、関西大学、同志社大学各 Branch からの支援で、その他の大学、高専を対象に新 SB の設立を目指す。

#### (2) 学生会員活動の活発化

学生を対象とした講演会、見学会、IEEE 活動説明会を兼ねたイベントを企画し、学生会員の一層の増加を図る。既設の 7 大学 SB の協力により、SB が設置されていない大学に対しても、学生会員への積極的なサービス提供ならびに会員増強のプロモーションを図る。関西支部の 7 大学 SB を中心に、交流会を引き続き開催し、SB 間の交流を深める。さらに、SB Chair ミーティングを開催し、活動の活発化を促すとともに、SB 間の協力体制を強化することを目指す。また、LMAG、YP、WIE の各 AG と協力してさまざまなイベントを実施する。さらに、各企画の学生会員増への貢献度を精査する必要がある。

#### (3) 表彰および研究奨励

2004 年から開始した IEEE 関西支部学生研究奨励賞を(AC と共同により)継続して企画し、優れた英文論文を発表した学生を表彰し、学生会員の研究を奨励する。また、受賞者が受賞内容について講演する機会を設けて、更なる学生会員の活動の活性化を目指す。

#### (4) 他支部の学生活動との連携

国内に設立されている他の 8 支部の学生活動との情報交換、連携により関西支部における学生会員活動のより一層の深化を図る。

#### d. Technical Program Committee

##### 【2019年活動報告】

以下の表に示す計4回の技術講演会を実施した。

	開催日	場 所	講 演 者	参加者数 (IEEE会員)	共催・協賛組織名
第 106 回	2019年 4月13日	テーマ：情報学と民族学のあいだー理系と文系の橋掛けを目指してー			
		国立民族学博 物館	久保 正敏 氏 (国立民族学博物館 名誉教授)	16(13)	IEEE 関西 LMAG
第 107 回	2019年 6月3日	テーマ：「ブロックチェーンは何か新しいのか、革新的なのか」「フィンテック、暗号資産と金融の未来」			
		立命館大学朱 雀キャンパス	上原 哲太郎 教授(立命 館大学情報理工学部) 岩下 直行 教授(京都大 学公共政策大学院)	11 (7)	
第 108 回	2019年 9月10日	テーマ：船舶におけるレジリエント航法に向けてー航行情報の融合化ー			
		海技大 学校	奥田 成幸 教授(海技大 学校)	22 (14)	IEEE 関西 LMAG
第 109 回	2019年 12月20日	テーマ：都市における人工光型植物工場の多様な展開の可能性ーランドスケ ープの視点からー			
		大阪府立大学 植物工場研究 センター	増田 昇 名誉教授(大阪 府立大学 植物工場研究 センター長)	14(12)	IEEE 関西 LMAG

##### 【2020年活動計画】

2019年と同様、講演会の開催を主たる活動とする。2020年も5回程度の企画・開催を目指す。従来から継続している、大阪・京都・神戸地区での講演会の開催、会員からの講演会の提案受付に加え、他団体との共催などにも積極的に取り組む。

特に特定の Chapter に属さないような横断的/学際的分野、技術の方向性、イノベーション、グローバル化といった内容の講演会も積極的に開催する。

#### e. Awards Committee

##### 【2019年活動報告】

「IEEE 関西支部学生研究奨励賞」の審査を、これまでと同様に 2019 年も継続して SAC と合同で審査委員会を設立して行った。本年度は 6 月に募集を開始し、10 月 4 日を応募期限として応募者を募った。当委員会と SAC による選定の後、12 月 18 日の支部理事会において 7 名の受賞者を決定した。

また、2014年～2018年に引き続き、「IEEE 関西支部 Young Professionals 賞」の募集を行った。学生研究奨励賞と同様、6月に募集を開始し、10月4日に応募を締め切った。その後、応募者の支援資料を11月8日までに受理し、当委員会による選定の後、12月18日の支部理事会において「学生会員」部門ならびに「大学や企業の若手会員」部門のそれぞれで1名ずつの受賞者を決定した。

#### 【2020年活動計画】

2020年は従来からの厳正な選考過程の実践を継続するとともに、これまで以上に応募者の増加に努める。「IEEE 関西支部 学生研究奨励賞」ならびに「IEEE 関西支部 Young Professionals 賞」を、それぞれ若手会員と学生会員の増強施策として位置づけ、関西支部が関与する種々の研究集会において賞の存在をより積極的に周知する。YP賞に関しては、SACとも協調し、Student Branchでの活動等IEEEへの貢献が顕著な学生に、同賞への応募を積極的に呼びかける。

### f. Chapter Operations Committee

#### 【2019年活動報告】

現存 Chapter の活動を支援するとともに、Chapter 新設への支援を行っている。具体的には、JC COC と連携して進めている本部へのオンライン書類提出、Chapter 支援費、国際会議実施での MOU 締結手続き、ソサイエティ別 Section 所属会員数の提供、petition 作成支援等である。計2回の JC COC 参加を通じて関連最新情報を把握し、国際会議の協賛などを行う際の手続き（特に MOU 締結の判断について）のガイドラインに関して協議した。

#### 【2020年活動計画】

2020年は、関西支部内 Chapter の活動状況について横断的に情報共有を行い、各 Chapter 活動のさらなる活性化に努める。具体的には、Japan Council Chapter Operation Committee と連携して、各 Chapter 活動報告による情報共有、Distinguished Lecturer 制度の説明、Japan Council の支部 Chapter 支援費の説明などを行う。特に、Chapter 支援費の Section 配下への移行についての動向を把握する。さらに、IEEE 本部へ行う報告や Chapter 維持条件の説明を通して、定常活動の維持について各 Chapter に再確認する。また、Kansai Section 下の各 Chapter に対し、MOU 締結手続き関連に関する詳細説明ならびに意見交換を行う。

### g. Life Members Affinity Group

#### 【2019年活動報告】

活動7年目として LMAG 活動をいっそう活性化させるべく、3回の現地講演会&見学会を技術講演会の一環として開催し、いずれも関西支部 TPC と共催した。4/13(土) 国立民族学博物館、9/10(火) 海技大学校、12/20(金) 大阪府立大学植物工場研究センター、以上のそれぞれにおいて、LMAG が主体となった現地講演会を開催した。各講演会の後には、有志による懇親会を開催し、今後の進め方や教育のありかたなどを論議し、メンバの親睦を深め

た。これらにより現地講演会というスタイルがいっそう定着した。

また、役員会は 2019 年度には 2 回開催した。2/22 (水) 支部総会直前の役員会として、年間スケジュール、現地講演会、サロン企画、動員計画、連携企画について、7/22(月) 実施状況の共有、年間計画の確認、現地講演会の企画の進捗、サロンの話題、クラブ活動、仙台 MAW 対応や SB 連携、等について、打ち合わせを行いその後の進め方を論議した。

2016 年に新たな活動として開始した気さくな LMAG サロンの継続を行っている。6/12(水) に南極旅行の体験を、元奈良先端科学技術大学院大学 木戸出先生による『南極ふしぎ発見の旅』と題しての講演会を開催した。

他組織との連携も密になってきた。9/28 開催の WIE シンポジウム (講演とワークショップ) にも参加した。SB 連携では、SB 英語プレゼン大会(10/21)に参加した。今年もこの大会の優秀賞の一つとして「LMAG Kansai Award」(表彰状及び副賞賞金)を設け 2 名の学生に授与した。また 11/22 に開催された SB 主催のブレインストーミングの会の企画、運営に協力し、「ポスト情報社会における技術者・研究者の在り方」というテーマの議論に LMAG から数名のメンバも参加した。

関西地域の外では、10/24-25 に仙台で開催された MAW(Metropolitan Area Workshop)に参加するとともに、仙台 LMAG の設立記念シンポジウムにも参加した。

NEWSLETTER 発行については、英語が公用語の学会として、英語にて NEWSLETTER を 12 月に発行した。今後も年 1, 2 回を目標に継続していく。

#### 【2020 年活動計画】

2020 年は活動 8 年目として、現役員体制 2 年目のもとで活動をより活発化させる。2019 年と同様に関西支部 TPC、WIE などと連携して数回の講演会 (現地講演会も含む) を開催する。LMAG サロンの活動を定着させることも大きな目標である。2020 年にはより広範なテーマにより活発なサロン形式を目指したい。また、YP や SB、WIE、他支部 LMAG との連携を積極的に進める。具体的には、連携先の諸活動に経験豊かな LMAG メンバも参加して、今年も LMAG 賞の授与をするなど、幅広い視点から IEEE 関西の活動を支援する。

これらの活動を「Kansai-LMAG Newsletter」として公開し、広く参加を呼び掛けるとともに活動報告する。

## h. WIE Affinity Group

### 【2019 年活動報告】

#### (1) Kansai WIE シンポジウム

9月28日(土)に大阪工業大学梅田キャンパスにおいて、「IEEE Kansai WIE シンポジウム 2019 – Enjoy Science, Technology and Your Life!」を開催した。Young Professionals (YP) AG, 大阪大学 StudentBranch, 京都大学 StudentBranch, 立命館大学 StudentBranch, 兵庫県立大学 StudentBranch, 関西大学 StudentBranch, 同志社大学 StudentBranch, 大阪工業大学に共催いただき、企画・広報・会場設備面に関して協力し準備を行った。

シンポジウム前半では、2名の女性技術者による以下の講演が行われた。

- 「リケジョ、のち人事部 ～川下り型キャリアの一事例～」(住友電気工業株式会社 國井美和氏)
- 「声で暮らしを便利に ～ワオ感を探し求めて～」(富士通研究所 香村 紗友梨氏)

講演後、6名の女性企業エンジニア(三菱電機 井上 風彩氏、関西電力 清水 久美子氏、株式会社ATOUN 松尾 幾代氏・鈴木 唯氏、NTT 荒木 章子氏、富士通研究所 香村 紗友梨氏)による5件のポスターセッションを行った。特にこれから研究者・エンジニアを目指す女子学生や、進路選択を考える高校生から積極的な質問があり、セッションは大いに盛り上がった。



WIE シンポジウム 2019 企業エンジニアによるポスターセッションの様子

シンポジウムの後半は、全員参加型のグループトークを実施した。「科学とテクノロジーと人生を楽しむためのヒント」をテーマにグループごとに意見交換を行ったのち、各グループでの議論を参加者全体で共有した。

シンポジウムへの参加者は 41 名(うち IEEE 会員は 16 名)であった。IEEE の非会員である若い世代の参加者もあり(高校生 4 名, 大学生・院生 7 名)、シンポジウムの目的の一つである若い世代の女性に科学者・技術者の魅力を伝えることができた。2019 年度は参加者数が少し減った(-5 名)ものの、内容の満足度は確実に向上している。本シンポジウムは WIE AG の年間活動の軸となるイベントとして今後も継続していく予定である。



WIE シンポジウム 2019 参加者集合

## (2) 役員会

第 1 回(1/23@梅田)、第 2 回(5/17@大阪工業大学)、第 3 回(8/28@大阪工業大学)、第 4 回(9/28@大阪工業大学)を開催し、主に運営体制の検討と WIE シンポジウムの準備を行なった。

## (3) 協賛およびその他の活動

- ・ 7/31 MIRU2019 にて WIE 女性研究者ランチミーティングを JC WIE, Sendai WIE, Nagoya WIE と共催
- ・ 9/28 WIE シンポジウムにて発表くださった女性技術者との意見交換会開催
- ・ 第 11 回 IEEE キャリアアップ・スキルアップに関するエッセイコンテストを実施(全国の YP/WIE AG との共催)
- ・ 10/25 Japan SYWL Workshop 2019 in Sendai を IEEE Japan SYWL Workshop 実行委員会と共催
- ・ 9/30 IEEE 関西支部講演会「IEEE シニアメンバーへの道」(Nomation Committee 主催) への協賛

## 【2020 年活動計画】

2020 年は、WIE AG 設立7周年となる。下記施策により、活動のさらなる活発化を図る。

- ・ Kansai WIE の活動を紹介するパンフレットを作成し、活動の広報を強化する。
- ・ WIE 活動に賛同するメンバーを積極的に募り、運営体制を強化する。
- ・ 女性研究者・技術者を応援するためのシンポジウムを開催する。
- ・ Student Branch, YP, LMAG, JC WIE, 他学会の女性支援関連活動などと連携しながら、関西での WIE 活動を推進する。
- ・ TENCON2020 における WIE 企画への協力を行う。

## i. Young Professionals Affinity Group

### 【2019 年活動報告】

2019 年は関西支部の WIE、SAC、MDC とも連携し、以下の活動を行った。

- 1) WIE シンポジウム実行委員会 (8/28@大阪工業大学)
- 2) MDC/SAC/YP Joint WS を開催 (5/22、12/16)
- 3) 関西 WIE シンポジウムの共催 (9/28、大阪工業大学) Student Branch とも共催
- 4) YP エッセイコンテスト共催
- 5) Kansai YP AG meeting (4/22、12/23 @オンラインミーティング)
- 6) 博士課程のキャリアについて語る会 (9/8@立命館大学いばらきキャンパス)

### 【2020 年活動計画】

2020 年も引き続き WIE、SAC、MDC と連携したイベントを実施し、若手研究者・技術者の交流、キャリアアップを促進していく。また、東京 YP、名古屋 YP ともより密接な連携を行い、交流イベントを増やす予定である。遠隔地で開催されるイベントに参加する YP 会員には交通費などの補助を行い、より活発な交流を支援する。

IEEE 関西支部会員の増加は重要な課題であると考えており、特に YP となる大学院学生と新規若手会員の増加に向けて各 Committee と協力して対策を検討する。年2回行っている Joint WS での議論から、学生や企業の若手研究者にとって IEEE 会員となるメリットが見えにくくなっているという点が問題であると考えている。この課題に対して、2019 年に「博士課程のキャリアについて語る会」を主催した。本会は、博士前期課程の学生が博士後期課程に進学する動機付けを狙いとしている。また、博士後期課程への進学者は、学会発表の機会も多くなり、IEEE への会員登録をはじめ、IEEE の参加継続につながる事が想定される。それにより、YP の活性化につながる事が期待されるイベントである。2020 年も同様に本イベントを主催し、IEEE 会員の増加を目指す。

## 9. Chapter 活動

### a. EDS (Electron Devices Society) Kansai Chapter

#### 【2019年活動報告】

1月11日に京都工芸繊維大学にて"酸化物応用デバイス、強誘電体応用デバイス"に関する技術報告会を開催した。参加者は41名、うちIEEE会員は15名であった。

1月24日に龍谷大学大阪梅田キャンパス セミナールームにて"第18回関西コロキウム電子デバイスワークショップ"を開催した。これは過去一年(2017年4月～2018年3月)の主要論文誌の中から、関西に関係のある技術者による優れた論文を選定し、著者本人に講演してもらうもので、10編の論文を選定し、参加者22名での開催となった。

5月20日に京都工芸繊維大学にてIEEE SCS Kansai Chapter と共催でIEEE EDS Distinguished Lecturer の Professor Jiann-Shiun Yuan(University of Central Florida)をお招きして、"Reliability and Characterization of GaN Power Devices"という題目で講演いただいた。参加者は20名であった。

8月26日に龍谷大学大阪梅田キャンパス 研修室にて第1回電子デバイス技術に関連するラウンドテーブルワークショップを開催した。企業の技術者を3名招待し、講演いただいた。参加者12名での開催となった。

9月24日に龍谷大学大阪梅田キャンパス セミナールームにて"第19回関西コロキウム電子デバイスワークショップ"を開催した。これは過去一年(2018年4月～2019年3月)の主要論文誌の中から、関西に関係のある技術者による優れた論文を選定し、著者本人に講演してもらうもので、9編の論文を選定し、参加者23名での開催となった。

11月14日～15日には、国際会議 "17th International Meeting for Future of Electron Devices, Kansai (IMFEDK 2019)" を京都駅前の龍谷大学響都ホールにて開催した。出席者は67名、うちIEEE会員は35名であった。発表された論文数は、ショートプレゼン付きポスターが18編、口頭発表が17編、うちキーノートスピーチが2編と招待論文が10編であった。

#### 【2020年活動計画】

2020年も技術講演会を中心に活動を展開する。特に若手研究者を主な対象とした学会や講演会の開催を通じて、質の高い講演と技術情報の提供を行い、会員獲得につなげることを目標とする。具体的には以下の通り計画している。

1月28日に龍谷大学響都ホールにて"トポロジカル量子コンピューティング、強誘電体メモリ"に関する技術講演会を開催する予定である。

また日程は未定であるが、下記のワークショップ、国際会議を予定している。

"第20回関西コロキウム電子デバイスワークショップ"を開催する。講師には国際レベルの研究成果を日本語にて発表して頂く予定である。先進性に優れていると判断された論文の著者に Award を授与し、その学術的貢献を表彰する。

国際会議"18th International Meeting for Future of Electron Devices, Kansai (IMFEDK 2020)" を龍谷大学アバンティ響都ホールにて開催を予定している。例年通り、招待講演(Keynote

および Invited)、一般講演およびポスター講演(ショートプレゼンテーション付き)を実施する。学生や若手研究者を中心に参加頂き、会員の活発な技術交流と教育の場を提供する。先進性に優れていると判断された論文の著者に Award を授与し、その学術的貢献を表彰する。

昨年度から開催している第 2 回電子デバイス技術に関連するラウンドテーブルワークショップを開催する予定である。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/eds/>

## b. SSCS (Solid State Circuits Society) Kansai Chapter

### 【2019 年活動報告】

2 月 19 日の ISSCC2019 にて、企業から優れた論文を発表することをマネジメント面で促進し、SSCS の活動に対して多大な貢献を継続している方に対し、IEEE SSCS Japan Chapter と共催で、IEEE SSCS Japan Industry Contribution Award を実施し、2 名を選定、表彰した。

3 月 4 日に、ISSCC2019 報告会を IEEE SSCS Japan Chapter と共催により神戸大学において開催し、17 名の講師の方に各技術分野について、ISSCC TPC メンバーの方に、ISSCC2019 のトレンドと次回の ISSCC2020 に通すコツについてご講演頂いた。参加者は東京サテライト会場を含めて、87 名であった。

5 月 13~14 日に、電子情報通信学会集積回路研究専門委員会との共催で、“LSI and Systems Workshop 2019”を東京大学で開催した。参加人数は 400 名であった。ポスター講演は 75 件あり、優れた発表に対し、2 件の IEEE SSCS Kansai Chapter Academic Research Award を表彰した。

6 月 7 日に、IEEE SSCS Japan Chapter と共催で東京大学にて、IEEE SSCS Distinguished Lecturer の Professor Vivienne Sze (MIT) をお招きして、“Efficient Computing for Robotics and AI”という題目で技術セミナーを実施した。参加人数は、25 名であった。

6 月 14 日に、IEEE SSCS Japan Chapter と共催でメルパルク京都にて、IEEE SSCS Distinguished Lecturer の Dr. Keith Bowman (Qualcomm.)をお招きして、“Adaptive and Resilient Circuits for Processors”という題目で技術セミナーを実施した。参加人数は、23 名であった。

6 月 18 日に、IEEE SSCS Japan Chapter と共催で東京大学にて、Professor Asad A. Abidi (University of California, Los Angeles)をお招きして、“A Triple-Loop CMOS PLL that Synthesizes Frequencies with Low Jitter and Spurs, Without Calibration”という題目で技術セミナーを実施した。参加人数は、57 名であった。

7 月 5 日に、IEEE SSCS Japan Chapter と共催で東京大学にて、IEEE SSCS Distinguished Lecturer の高宮 真 教授 (東京大学)をお招きして、“Injecting Digital into Power Electronics: Programmable Digital Gate Driver IC for Power Transistors”という題目で技術セミナーを実施した。また同日に、2019 Symposium on VLSI Circuits 報告会を

IEEE SSCS Japan Chapter と共催で東京大学にて開催し、11名の講師の方に各技術分野についてご講演頂いた。出席者は36名であった。

7月29日に、IEEE SSCS Japan Chapter と共催で東京大学にて、Professor Kofi Makinwa (Delft Univ. of technology) と、IEEE SSCS Distinguished Lecturer の岡田 健一 教授 (東京工業大学)をお招きして、Professor Kofi Makinwa には、”Micropower ADCs”という題目で、岡田 健一 教授には、”Millimeter-Wave Phased-Array Transceiver Design for 5G New Radio”という題目で技術セミナーを実施した。参加人数は、42名であった。

8月22日に、IEEE SSCS Japan Chapter と共催で MEBIC 扇町にて、IEEE SSCS Distinguished Lecturer の Professor Meng-Fan Chang (National Tsing Hua University)をお招きして、”Computing-in-Memory for AI Chips: Trends and Challenges”という題目で技術セミナーを実施した。参加人数は、9名であった。

12月17日に、IEEE SSCS Japan Chapter と共催で A-SSCC 2019 報告会を開催し、7名の講師の方に各技術分野についてご講演頂いた。出席者は15名であった。

#### 【2020年活動計画】

2020年も引き続き技術講演会を中心に活動を展開し、学生や若手研究者を主な対象とした質の高い講演と技術情報の提供を行い、会員獲得につなげることを目標とする。3月10日に技術講演会を開催し、ISSCC2020にて発表を予定している日本人技術者を招いて、講演会を開催する予定である。さらに、関西地区等で開催される各種研究会、ワークショップにも積極的に協賛するとともに、協賛金とAwardを出し、会員獲得に努める計画である。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/sscs/>

## c. CASS (Circuits and Systems Society) Kansai Chapter

### 【2019 年活動報告】

2019 年は、3 件の技術講演会を実施した。3 件のうち 2 件は IEEE Circuits and Systems Society の Distinguished Lecturer Program (DLP) を利用したものであり、さらにそのうち 1 件は IEEE CAS Society, Shikoku Chapter との合同開催であった。また、国内大会、セミナーおよび技術講演会の協賛をそれぞれ 1 件ずつ実施した。特に技術講演会は、多数の学生や一般の参加者があり大変好評であった。さらに活発な議論も行われ、多くの参加者の今後の研究等の活動にも役立つと考えられる。詳細は以下のとおりである。

6 月 7 日に神戸大学六甲台第 2 キャンパスにおいて、Assoc. Prof. Dr. Nan Sun 氏 (University of Texas at Austin) をお招きし、”When SAR meets  $\Delta\Sigma$  - Hybridization of SAR and sigma-delta ADCs” および ”New Ingredients in the Pot - Rethink Analog IC Design” と題した 2 テーマの技術講演会を開催した。(参加者 23 名, うち会員 7 名)

7 月 10 日に大阪府立大学中百舌鳥キャンパスにおいて、高橋規一氏 (岡山大学大学院自然科学研究科教授) をお招きし、”ネットワークのつながり方の最適化” と題した技術講演会を開催した。(参加者 78 名, うち会員 4 名)

11 月 8 日～10 日に札幌コンベンションセンターにおいて開催された、第 62 回自動制御連合講演会 (主催: 日本機械学会ほか) に協賛した。

11 月 15 日に大阪大学中之島センターにおいて開催された、システム制御情報学会セミナー 2019 「次世代ヘルスケアを支える情報システム」(主催: 一般社団法人システム制御情報学会) に協賛した。

11 月 22 日に神戸大学六甲台第 2 キャンパスにおいて、Prof. Chua-Chin Wang 氏 (National Sun Yat-sen University, Taiwan) をお招きし、”How to Design High-Speed Nano-scale CMOS Mixed-voltage Digital I/O Buffer with Reliable Slew Rate Insensitive to PVT Variation” と題した技術講演会を開催した。(参加者 30 名, うち会員 17 名)

12 月 12 日に立命館大学大阪梅田キャンパスにおいて開催された、IEEE Computer Society Kansai Chapter 技術講演会に協賛した。

以上、最新技術動向に関する技術講演会を開催するとともに、国内大会にも協賛することで、参加者との交流を通じて、活動のアピールと会員の獲得に努め、CASS 関西チャプターの活動をアピールすることができた。なお、実施した講演会や今後の予定については、詳細を後述の URL に掲載している。

### 【2020 年活動計画】

2020 年も 2019 年と同様に、技術講演会を主催・共催として企画・実行することを中心に活動し、学生や若手研究者・技術者を主な対象とした質の高い講演と技術情報の提供を行い、会員獲得につなげることを目標とする。著名な国外研究者が集まる国際会議やプログラム委員会の開催に合わせて、講演会を開催することも検討する。また、関西地区で開催される各種研究会、ワークショップを共催、あるいは協賛し、学会活動に貢献するとともに会員獲得に努める計画である。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/cas/>

## d. APS (Antennas and Propagation Society) Kansai Joint Chapter

### 【2019 年活動報告】

昨年に引き続き、(1)関西圏におけるアンテナおよび無線通信技術に携わる若手技術者の育成を通して関西圏の産業振興に寄与すること、(2)各種研究会・講演会活動を通して関西圏企業・大学の活性化を図ること、を基本的なミッションとして活動を進めた。本年は、主催 5 件、協賛 6 件の技術会議を実施した。

### 【主催技術会議】

1. 2 月 22 日に、住友電気工業株式会社 大阪製作所にて IEEE AP-S Kansai Joint Chapter 特別講演を主催し、笹岡秀一 教授(同志社大学)「アンテナ・伝搬を活用した物理層セキュリティの研究に携わって」と題してご講演を頂いた。
2. 5 月 16 日に、かんぽの宿 有馬にて IEEE AP-S Kansai Joint Chapter 特別講演を主催し、賀谷信幸 氏(WaveArrays 株式会社)「宇宙太陽発電衛星とマイクロ波無線送電」と題してご講演を頂いた。
3. 8 月 31 日に、大阪電気通信大学 駅前キャンパスにて IEEE AP-S Kansai Joint Chapter 次世代の超高速ワイヤレス通信システムを支えるアンテナ・伝搬技術ワークショップを主催し、西尾理志 助教(京都大学)に「無線通信制御への応用に向けた深層学習の基礎と実践」と題してご講演を頂いた。参加者総数は 23 名であった。
4. 10 月 17 日に、大阪大学 豊中キャンパスにて IEEE AP-S Kansai Joint Chapter 特別講演を主催し、田中嘉津夫 氏(岐阜大学名誉教授)より「表面プラズモンギャップ導波路の発想」と題してご講演を頂いた。
5. 12 月 7 日に、MTT-S Kansai Chapter との合同若手技術交流会を関西大学 高槻キャンパスにおいて開催し、宇野孝 氏(三菱電機株式会社)に「気象レーダ向け樹脂製導波管スロットアレーアンテナの設計」と題して、学生を対象とした実際の研究開発活動の体験をご講演いただいた。さらに、各大学、企業からのポスター展示を行い、活発な討論が行われた。また、12 月 22 日には IEEE AP-S Kansai Joint Chapter Best Presentation Award 授賞式を実施し、12 月 7 日の IEEE AP-S Kansai Joint Chapter and IEEE MTT-S Kansai Chapter 合同若手技術交流会 2019 において優れたポスター発表を行った 3 名に賞を授与した。

### 【協賛技術会議】

1. 電子情報通信学会 アンテナ伝播研究会 アンテナ・伝搬における設計・解析手法ワークショップ(第 63 回)  
タイトル: できる! 実践 MIMO アンテナ  
講師: 本間尚樹 教授(岩手大学)  
2019 年 2 月 20 日 同志社大学 今出川キャンパス
2. URSI-C 小委員会 第 24 期 第 4 回公開研究会  
テーマ: Beyond 5G に向けた最新動向  
2019 年 3 月 1 日 KKR 城崎玄武

3. 電子情報通信学会 アンテナ伝播研究会 第 8 回アドバンスドワイヤレスシリーズ  
タイトル: 5G のチャネルモデルと Massive MIMO システム評価への応用  
講師: 北尾光司郎 氏(NTTドコモ), 西森健太郎 准教授(新潟大学)  
2019 年 9 月 9 日 尼崎中小企業センター
4. 電子情報通信学会 無線電力伝送研究会 第 12 回 WPT コンテスト  
テーマ: ミニ四駆ワイヤレス給電走行レース～WPT 受電台車を牽引!～  
2019 年 9 月 10 日 大阪大学 豊中キャンパス
5. 電子情報通信学会 無線電力伝送研究会 第 4 回ワークショップ  
タイトル: ワイヤレス給電総論 – 基礎理論から最新研究例まで –  
講師: 篠原真毅 教授(京都大学)  
2019 年 10 月 11 日 龍谷大学 瀬田キャンパス
6. 電子情報通信学会 アンテナ伝播研究会 アンテナ・伝搬における設計・解析手法ワークショップ(再開催第 25 回)  
タイトル: 電磁メタマテリアルのアンテナおよび電磁波制御への応用  
講師: 道下尚文 准教授(防衛大学校)  
2019 年 10 月 16 日 大阪大学 中之島センター

#### 【2020 年活動計画】

昨年に引き続き、(1)関西圏におけるアンテナや無線通信技術に携わる若手技術者の育成を通して関西圏の産業振興に寄与すること、(2)各種研究会・講演会活動を通して関西圏企業・大学の活性化を図ること、を基本的なミッションとして活動し、1 月にサンポートホール高松、8 月に姫路、11 月に松山において、IEEE AP-S Kansai Joint Chapter 特別講演を計画している。さらに、次世代の超高速ワイヤレス通信システムを支えるアンテナ・伝搬技術ワークショップおよび MTT-S Kansai Chapter との合同若手技術交流会を開催することを予定している。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/aps/>

## e. COMS (Communications Society) Kansai Chapter

### 【2019 年活動報告】

2019 年は技術講演会を 3 回、DLT を 3 回主催した。以下にまとめる。

[技術講演会]

6 月 10 日 大阪府立大学

講演者：Prof. Tom Hou, IEEE Fellow

演題：Real-Time Resource Allocation for 5G NR

参加者数：7

6 月 17 日 大阪府立大学

講演者：Dr. Nghi Tran, Associate Professor

演題：Fundamental Limits and Coding for Additive Gaussian and Non-Gaussian/Non-Linear Channels

参加者数：8

6 月 20 日 大阪府立大学

講演者：Dr. Rui Zhang, IEEE Fellow, Associate Professor

演題：Towards Smart and Reconfigurable Environment: Intelligent Reflecting Surface Aided Wireless Network

参加者数：8

[DLT]

7 月 22 日 京都大学

講演者：Prof. Yingjun Angela Zhang, The Chinese University of Hong Kong,

演題：Wireless Powered Edge Computing

参加者数：13

7 月 26 日 大阪産業大学

講演者：Prof. Yingjun Angela Zhang, The Chinese University of Hong Kong,

演題：Super Resolution Blind Channel-and-Signal Estimation in Massive MIMO Systems

者数：5

11 月 21 日 大阪産業大学

講演者：Prof. Suresh Subramaniam, George Washington University, USA

演題：The Evolution of Data Center Network Architectures

参加者数：11

広報活動を活性化するため Web サイトを活用して COMS Kansai Chapter に関する情報公開を行なっている。活動計画や報告は下記の URL により提供している。

## 【2020 年活動計画】

関西圏における通信技術に関わる技術者との交流をはかり、産業界とのつながりをもちつつ活性化を行うことを目的として講演会を開催する。加えて、通信技術に関わる研究者に議論と交流の場を提供し、会員数増加を目標に活動を行う。昨年と同様の活動を計画しており、秋頃に講演者を招待し、IEEE COMS Kansai Chapter 技術講演会を主催する。また、他の研究講演会への積極的な共催を図り、周知活動を行うことで参加数増加を促し会員獲得を目指す。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/coms/>

## f. CS (Computer Society) Kansai Chapter

### 【2019 年活動報告】

2019 年は 2 件の技術講演会の主催、2 件の協賛を行った。技術講演会の内容は、具体的に次のとおりである。

2019 年 7 月 22 日(月)に、三菱電機 西日本メカトロソリューションセンターに於いて、『機械学習の社会実装に向けた最新エンジニアリング』というテーマで 2 件の講演を行った。1 件目は「機械学習のためのアルゴリズムとハードウェア設計技術の現状と未来」と題して、大阪大学の劉 載勲氏に機械学習の軽量化と高速化のための機械学習アルゴリズムとハードウェア実装方式に関する現状と未来展望についてご紹介頂いた。2 件目は「機械学習応用システムの工学的アプローチ: その研究動向と今後の展望」と題して、国立情報学研究所の吉岡 信和氏に、エンジニアリングの観点からの機械学習組み込みシステムの開発の難しさと、それを解決するための関連研究、および今後の研究展望についてご紹介頂いた。講演会では、51 名の参加者を集めて活発な質疑応答が行われ、貴重な技術交流の場を持つことができた。

2019 年 12 月 12 日(月)に、立命館 大阪梅田キャンパスに於いて、『IoT 時代に潜む情報セキュリティの脅威と最新の対策技術』というテーマで 2 件の講演を行った。1 件目は「情報機器に存在する物理的な漏えい情報を用いた攻撃に関するセキュリティ」と題して、奈良先端科学技術大学院大学の藤本 大介氏にご講演頂いた。情報機器に対する攻撃手段の一例として消費電力などの物理的な漏えい情報を用いた攻撃を挙げ、暗号デバイス・ディスプレイ・センサーデバイスなどを対象としたセキュリティ研究事例についてご紹介頂いた。2 件目は「制御システムにおけるサイバーセキュリティ」と題して、パナソニック株式会社の松島 秀樹氏にご講演頂いた。自動車や工場、ビルなどのネットワーク化が進む中、制御システムにおけるサイバーセキュリティの現状と、その対策となるセキュリティ技術についてご紹介頂いた。講演会では、21 名の参加者を集めて活発な質疑応答が行われ、貴重な技術交流の場を持つことができた。

協賛としては、2019 年 5 月 13 日(月)～14 日(火)に東京大学で行われた「LSI とシステムのワークショップ 2019」(主催 IEICE/ICD)への協賛を行った。また 2019 年 12 月 23 日(月)に、早稲田大学で行われた「IEEE Computer Society Tokyo/Japan Chapter・スマートエスイー合

同 Young Author Award 受賞記念講演会およびスマートエスイーコンソーシアム 2019 年度技術研究交流フォーラム」(主催:IEEE CS Tokyo/Japan Joint、enPiT-Pro スマートエスイー、スマートエスイーコンソーシアム)への協賛を行った。

また他 Chapter との連携を推進すべく国内 CS Chapter (Tokyo/Japan Joint、Fukuoka) との連携ミーティングを主催し(2019 年 11 月 6 日(水) IEEE Japan Office、2019 年 12 月 23 日(月)早稲田大学)、CS Japan の位置づけとして、各種 Award の新設や Chapter 間連絡用メーリングリスト開設などを協議し運用を開始した。また技術分野の近い Society である IEEE CASS (Circuits and Systems Society) の Kansai Chapter との連携を開始し、当方第 2 回技術講演会への協賛を頂いた。また 2019 年第 1 回技術講演会から、Kansai Section MDC (Membership Development Committee) および IEEE Japan Office と連携し、MD 用受付を開設し積極的な MD 活動を実施した。

#### 【2020 年活動計画】

2020 年は国内 IEEE Computer Society Chapter (Tokyo/Japan Joint、Fukuoka) および CASS Kansai/MDC Kansai との有機的な連携を進め、新設する CS Kansai Young Author Award と技術講演会を中心に、学生や若手研究者を主な対象とした研究活動の奨励と質の高い技術情報提供を行い、積極的な IEEE 会員獲得を目標とする。また 2019 年は 2 件の協賛を行った。2020 年も関西地区を含め全国で開催される各種シンポジウム、ワークショップに積極的に協賛し、会員獲得に努める計画である。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/cs/>

## g. MTTS (Microwave Theory and Techniques Society) Kansai Chapter

【2019 年活動報告】

### Technical Meetings

#### I. 主催/共催

##### 1. 講演会（主催）国内における 5G 研究開発プロジェクトの成果とその応用ワークショップ

演者／演題：奥村幸彦（株式会社 NTT ドコモ）／5G 実現に向けた R&D の取り組みと 5G を用いる新たなサービスの協創

演者／演題：瀬山 崇志（富士通株式会社）／5G 超高密度分散アンテナシステムによる大容量化への取り組み

演者／演題：海野 義博 様（日本電気株式会社）／5G 向け低 SHF 帯 C-RAN Massive MIMO システム

演者／演題：中溝 英之 様（三菱電機株式会社）／5G における高 SHF 帯広帯域 Massive MIMO 向けハイブリッドビームフォーミングシステムの開発

年月日／会場：2019 年 3 月 17 日／大阪大学 豊中キャンパス

出席者数：54 名（会員 39 名，非会員 15 名）

##### 2. 講演会（主催）ドローンへのワイヤレス給電技術の応用とビジネス展望ワークショップ

演者／演題：濱田 浩（東京電力ホールディングス株式会社）／ドローンワイヤレス電力伝送の実現に向けて

演者／演題：菅木 紀代一（株式会社 プロドローン 取締役副社長）／産業用ドローンの今と未来

演者／演題：尾林 秀一（株式会社 東芝）／ドローンワイヤレス充電ポートに向けた 85kHz 帯磁界結合型無線電力伝送

演者／演題：大平 孝（豊橋技術科学大学）／電界結合 WPT ドローン充電ステーションの高周波設計理論

演者／演題：本間 幸洋（三菱電機株式会社）／マイクロ波を用いた移動体への無線給電技術

年月日／会場：2019 年 9 月 14 日／大阪大学 豊中キャンパス

出席者数：67 名（会員 45 名，非会員 22 名）

##### 3. 講演会（共催）「次世代無線通信技術とフォトニクス」ワークショップ

演者／演題：西村 公佐（株式会社 KDDI 総合研究所）／Beyond 5G 時代のモバイルアクセスを支える有線アクセスシステムの動向

演者／演題：相葉 孝充（矢崎総業株式会社）／曲げ不感マルチモード光ファイバを用いた 28GHz 帯無線信号の RoF 伝送

演者／演題：山根 啓作、渡辺 悠歩、戸田 泰則、森田 隆二（北海道大学）／光波  
の幾何学的変換に基づく OAM モード分解素子の開発

演者／演題：田邊 浩介（日本電気株式会社）／ミリ波通信システムの最新動向

年月日／会場：2019 年 11 月 23 日／同志社大学 今出川キャンパス

出席者数：38 名（会員 32 名，非会員 6 名）

4. 第 12 回マイクロ波英語発表会（主催）

年月日／会場：2019 年 6 月 22 日／京都工芸繊維大学 松ヶ崎キャンパス

発表件数：27 件／参加者数 55 名（会員 15 名、非会員 40 名）

5. IEEE AP-S Kansai Joint Chapter/MTT-S Kansai Chapter 合同若手技術交流会 2019  
（共催）

演者／演題：二神 大（株式会社村田製作所）／ミリ波帯 RF アンテナモジュールの開  
発

演者／演題：長谷川 直輝（ソフトバンク株式会社）／SoftBank での無線電力伝送に  
関する研究について

演者／演題：宇野 孝（三菱電機株式会社）／気象レーダ向け樹脂製導波管スロットア  
レーアンテナの設計

演題：パネルセッション

演題：ポスターセッション

年月日／会場：2019 年 12 月 7 日／関西大学高槻キャンパス

参加者数：97 名（会員 35 名、非会員 62 名）

6. 講演会（主催）DML 講演「フィルタ設計の基礎と応用」ワークショップ

演者／演題：石崎俊雄（龍谷大学）／学生にもわかるマイクロ波フィルタの基礎と応  
用

演者／演題：Dr. Simone Bastioli（RS Microwave Company Inc., USA）／  
Nonresonating Modes Do It Better!（DML 講演）

年月日／会場：2019 年 11 月 8 日／龍谷大学 瀬田キャンパス

参加者数：31 名（会員 11 名、非会員 20 名）

## II. 協 賛

1. 電子情報通信学会 マイクロ波研究会

2019 年 1 月～2019 年 12 月の期間中に 10 回開催

2. URSI-C 小委員会 第 24 期第 4 回公開研究会

テーマ：Beyond 5G に向けた最新動向

2019 年 3 月 1 日 KKR 城崎玄武（国家公務員共済組合連合会 城崎保養所）会議室

3. 2019 Thailand-Japan Microwave (TJMW2019)

2019 年 6 月 26 日～6 月 28 日

Rajamangala University of Technology Suvarnabhumi (バンコク, タイ)

4. 第 10 回日本電磁波エネルギー応用学会講演会  
2019 年 5 月 30 日 慶応義塾大学 日吉キャンパス
5. ミニ四駆ワイヤレス給電走行レース～WPT 受電台車を牽引！～  
2019 年 9 月 10 日 大阪大学 豊中キャンパス
6. 第 13 回日本電磁波エネルギー応用学会シンポジウム  
2019 年 10 月 30 日～11 月 1 日 国立研究開発法人産業技術総合研究所つくばセンター中央地区共用講堂
7. 2019 Microwave Workshops and Exhibition  
2019 年 11 月 27 日～11 月 29 日 パシフィコ横浜

### **Non-technical (e.g. Professional or Administrative) Meetings**

1. 役員会  
2019 年 1 月 26 日／大阪大学 豊中キャンパス 出席者数：9 名  
2019 年 3 月 17 日／大阪大学 豊中キャンパス 出席者数：11 名  
2019 年 9 月 10 日／大阪大学 豊中キャンパス 出席者数：12 名  
2019 年 11 月 23 日／同志社大学 今出川キャンパス 出席者数：6 名  
2019 年 12 月 7 日／関西大学 高槻キャンパス 出席者数：7 名
2. 2019 年 IEEE 関西支部総会  
2019 年 2 月 22 日／中央電気倶楽部 Chapter からの出席者 1 名
3. 2019 年 IEEE Chapter Operation Committee  
2019 年 6 月 27 日 機械振興会館 Chapter からの出席者数：1 名 (Web 出席)  
2019 年 11 月 6 日 機械振興会館 Chapter からの出席者数：1 名

### **【2020 年活動計画】**

2020 年は、これまでの戦略領域について一部見直しを行うが、従来通り技術講演会、若手技術者交流会、英語発表会を中心に活動を行うとともに、関西地区で開催される各種研究会、ワークショップを積極的に共催／協賛し、学会活動への貢献と会員獲得に努める計画である。マイクロ波英語発表会での優秀な発表者 2 名に IEEE MTT-S Kansai Chapter Best Young Presentation Award を授与し、国際的に活躍できる若手技術者の育成を強化する。また、マイクロ波の理論および技術の分野に貢献する論文を発表した若手研究者 3 名に IEEE MTT-S Japan Young Engineer Award を授与し、その学術的貢献を表彰する。Fellow および Senior Member への昇格候補者支援も、引き続き MTT-S Japan Chapter、MTT-S Nagoya Chapter と共同で行う。2014 年より運用し始めた電磁波関連分野の学生と電磁波技術者を求めている企業の間を橋渡しする「マイクロ波 出会いの広場」をより効果的な運用に推進するとともに、この橋渡しを就職活動だけでなく学生のインターンシップなどにも展開する計画である。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/mtts/>

## h. PHOS (Photonics Society (formerly LEOS)) Kansai Chapter

### 【2019 年活動報告】

Technical Meeting としては、1 月 17 日(木)に、大阪大学中之島センターにおいて、IEEE Photonics Society Kansai Chapter 特別講演を主催、田中洋介教授(東京農工大)から「光ファイバセンサの今とこれから」という題目でご講演いただいた。参加者は 82 名と盛会であった。これは、翌 18 日(木)も含む 2 日間にわたって同会場において開催された、電子情報通信学会 OPE/LQE/PN/MWP/EST/EMT、電気学会 EMT 研究会との併催である。

5 月 30 日(木)～31 日(金)には、琵琶湖コンファレンスセンターで開催された電子情報通信学会レーザ・量子エレクトロニクス研究会／レーザ学会の合同研究会に協賛、枝松圭一教授(東北大)、武岡正裕氏(NICT)、武居弘樹氏(NTT)の 3 名をお招きし、量子光通信分野の最新動向についてご講演いただいたほか、一般講演が 11 件あった。参加者は 64 名と盛会だった。

8 月 22 日(木)～23 日(金)には、東北大学電気通信研究所で開催された電子情報通信学会 OPE/LQE/CPM/R/EMD 合同研究会に協賛、招待講演が 13 件、一般講演が 8 件あった。参加者は 106 名と盛会だった。

10 月 16 日(水)には、京都工繊大で開催された「電子システム工学シンポジウム 2019」を京都工繊大と共催した。寺田純氏(NTT)による「5G 時代を支える光アクセス技術」、および高井勇氏(豊田中研)による「運転システムのためのセンシング技術」の 2 件の特別講義のほか、角江崇助教(千葉大)をお招きして「ホログラフィにより切り開く新たな可能性と未来」と題してご講演いただいた。参加者は 96 名と盛会であった。

11 月 9 日(土)には、大阪大学吹田キャンパスにて、「第 5 回 IEEE Photonics Society Kansai Chapter 英語発表会」を主催した。8 名の学生による英語での発表のほか、Haris Amir 氏(Aston 大)から“Erasmus Mundus Joint Master Degree – Photonic Integrated Circuits, Sensors and NETworks (PIXNET) –”、坂野寿和氏(ATR)から「ATR における研究開発と事業開発を両輪に持続的成長を目指すエコシステム形成に向けた取り組み」と題してご講演いただいた。学生の優れた発表 2 件に対しては Best Student Presentation Award と副賞を授与した(Chapter 支援費を利用)。参加者は 22 名であった。

11 月 23 日(木)には、同志社大学今出川キャンパスにて、「次世代無線通信技術とフォトニクス」ワークショップを MTT-S Kansai Chapter と共催、西村公佐氏(KDDI 総研)、相葉孝充氏(矢崎総業)、山根啓作准教授(北大)、田邊浩介氏(NEC)の 4 名をお招きし、5G 世代に向けたマイクロ波・ミリ波フォトニクス分野の最新動向についてご講演いただいた。参加者は 38 名であった。

12 月 5 日(木)～6 日(金)には、早稲田大(東京)で開催された電子情報通信学会集積 OPE/LQE/PICS 合同ワークショップに協賛、半導体レーザ国際会議のプレカンファレンスとして 7 件、ビーム形成・ステアリング技術に関する招待講演 8 件、ポスター発表 27 件があった。参加者は 256 名と盛会であった。

Administrative Meeting としては、1 月と 11 月に大阪大で役員会を開催、年間活動方針、Technical Meeting の企画、運営について協議した。

## 【2020 年活動計画】

2020 年も、技術講演会の開催を中心に活動を展開する。1 月 30 日には、例年通り電子情報通信学会 EMT/EST/MWP/PN/PEM 合同研究会と併催の形で特別講演イベントを主催するほか、年間を通じてさらに 2~3 件の技術講演会やワークショップを企画する予定である。また、好評であった学生英語発表会も開催する予定である。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/pho/>

## i. SPS (Signal Processing Society) Kansai Chapter

### 【2019 年活動報告】

Distinguished Lecturer 講演会と Distinguished Industry Speaker 講演会を含む以下の 6 件の講演会を主催した。

1. Distinguished Industry Speaker 講演会（主催）  
演 者：Dr. Tao Zhang (Starkey Hearing Technologies)  
演 題：Robust and Practical Approaches to the Cocktail Party Problem  
for Hearing Devices  
年月日／会場：2019 年 8 月 8 日 NTT コミュニケーション科学基礎研究所  
出席者数：27 名
2. Distinguished Lecturer 講演会（主催）  
演 者：Prof. Israel Cohen (Technion – Israel Institute of Technology)  
演 題：Array processing and beamforming with Kronecker products  
年月日／会場：2019 年 10 月 9 日 NTT コミュニケーション科学基礎研究所  
出席者数：16 名
3. 講演会（共催）  
演 者：Prof. Chin-Tuan Tan (The University of Texas at Dallas)  
演 題：Cortical Entrainment for Speech Comprehension in Multi-Talker  
Environment  
年月日／会場：2019 年 7 月 11 日 関西大学  
出席者数：27 名
4. Distinguished Industry Speaker 講演会（主催）  
演 者：Dr. Pedro Moreno (Google)  
演 題：Speech technologies at google: an overview  
年月日／会場：2019 年 11 月 15 日（金）NTT コミュニケーション科学基礎研究所  
出席者数：21 名
5. 講演会（主催）  
演 者：Assoc. Res. Prof. Shinji Watanabe (Johns Hopkins University)

演 題 : End-to-End Speech Processing in Multi-Microphone Multi-Speaker Scenarios

年月日/会場 : 2019年12月12日(木) NTT コミュニケーション科学基礎研究所

参加者数 : 29名

6. 講演会(共催)

演 者 : Prof. C.-C. Jay Kuo (University of Southern California)

演 題 : From Feedforward-Designed Convolutional Neural Networks ~ (FF-CNNs) to Successive Subspace Learning (SSL)~

年月日/会場 : 2019年12月19日(木) 京都大学

出席者数 : 47名

以下の Technical Meeting を協賛した。

1. 電子情報通信学会 信号処理・応用音響・音声共催研究会  
2019年3月14日~15日  
アイランド ナガサキ MINATO HOTEL
2. 第51回ストカスティックシステムシンポジウム(SSS'19)  
2019年11月1日~2日  
会津大学
3. 第34回信号処理シンポジウム  
2019年11月13日~15日  
とりぎん文化会館

学生賞に関する活動として、IEEE SPS Tokyo Joint Chapter および IEEE SPS Sendai Chapter との連名により、IEEE SPS Japan Student Journal Paper Award、IEEE SPS Japan Student Conference Paper Award、および IEEE SPS Japan Young Author Best Paper Award を実施し、それぞれ3名、3名、1名の受賞者を選定・表彰した。

【2020年活動計画】

引き続き、講演会を開催し、会員を中心とする国内外の学術交流を図る。

IEEE SPS Tokyo Joint Chapter、Sendai Chapter と連名で論文賞および学生賞の表彰を実施し、若手の研究を奨励するとともに、会員増加に努める。

これらの活動については下記 Web サイトで公開している。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/sps/>

## j. CES (Consumer Electronics Society) West Japan Joint Chapter

### 【2019 年活動報告】

#### Technical Meetings

##### I. 主催/共催

###### 1. 国際会議(共催) IEEE LifeTech2019

年月日/会場: 2019年3月12日~3月14日/千里ライフサイエンスセンター

出席者数: 160名(日本人130名、16カ国30名)

発表件数: 120件(口頭発表80件、ポスター発表40件)

内容: IEEE LSTC 主催の国際会議。ISTC は IEEE のライフサイエンスに関する、CE Society を含む5つの Society で構成する Council。

長谷智弘教授(龍谷大学)が Conference Chair として創設。CE Society West-Japan Chapter のメンバーが運営の中心的な役割を担った。

###### 2. 国際会議(主催) IEEE 8th Global Conference on Consumer Electronics (GCCE 2019)

年月日/会場: 2019年10月15日~10月18日/千里ライフサイエンスセンター

出席者数: 551名(20か国より)

発表件数: 435件

内容: CE Society の Vice President・長谷教授が設立した国際会議。毎年10月に IEEE 主催の国際会議として日本で開催している。GCCE 2019 の運営主体は CE-08 West Japan Chapter で、主たる運営はその会員で行なった。

###### 3. Inter BEE 2019 テクニカルセッション講演(共催)

年月日/会場: 2019年11月15日/幕張メッセ

セッション司会: 長谷 智弘教授(龍谷大学)

セッション題目: 「デジタルメディアの進化と国際標準  
~伝送・蓄積のための圧縮から利活用へ~」

演者: 浅井 光太郎(三菱電機株式会社 通信システム事業本部 技術顧問)

演題: 映像メディアの符号化・標準化・活用

演者: 杉山 昭彦(首都大学東京 システムデザイン学部 客員教授)

演題: 音響・音声信号の国際標準化動向

###### 4. 国際会議(共催) 2019 TRON Symposium

年月日/会場: 2018年12月11日~12月13日/東京ミッドタウン

出席者数: 100名 (IEEE CE Society が共催)

CE Society の共催(Technical Sponsor)により、国際会議 2019 TRON Symposium を開催した。12月11日~13日に同場所で開催の TRONSHOW 2019(6,000名参加)の一環として開催。長谷 智弘教授(龍谷大学)が Vice-Chair として運営参加。

#### Non-technical (e.g. Professional or Administrative) Meetings

##### 1. チャプター役員会

年月日/会場:2019年3月11日/千里ライフサイエンスセンター 出席者数:3名  
2019年の運営体制に関して打合せを実施した。

2. チャプター役員会

年月日/会場:2019年7月13日/ヒルトン大阪 出席者数:6名  
2019年の運営体制に関して打合せを実施した。

3. チャプター役員会

年月日/会場:2019年10月15日/千里ライフサイエンスセンター 出席者数:6名  
GCCE 2019の準備状況を確認し、今後の進め方に関して打合せを実施した。

4. チャプター役員会

年月日/会場:2019年11月15日/幕張メッセ 出席者数:2名  
本年の総括と来年の計画に関して打合せを実施した。

【2020年活動計画】

1. LifeTech 2020:

2020年3月10日～12日に京都市のメルパルク京都にて国際会議 LifeTech 2020を開催する。この国際学会は、弊 Chapter の長谷智弘教授が創設した IEEE 主催のライフサイエンスに関する新規国際会議。IEEE Life Sciences Technical Community (IEEE LSTC)が主催で、IEEE LSTC には IEEE の5 Society (Circuits and Systems Society, Consumer Electronics Society, Control Systems Society, Signal Processing Society, Engineering in Medicine and Biology Society) が参加。

2. GCCE 2020:

2020年10月13日～16日に神戸市の神戸国際会議場にて国際会議 GCCE 2020を開催する。GCCE 2020では若手論文賞の表彰に加え、Young Profession イベントを通じて新規若手会員の獲得に努める。

3. 2020 TRON Symposium:

12月中旬に東京ミッドタウンで国際会議 2020 TRON Symposium (CE Society の共催 (Technical Sponsor))を開催する。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/ces/>

## k. CSS (Control Systems Society) Kansai Chapter

### 【2019 年活動報告】

#### Technical Meetings

##### I. 主催/共催

###### 1. 講演会 (2019/2/21)

講演: Formation Control Using Bearing-Only Sensing - Theory and Implementation Challenges

講師: Dr. Daniel Zelazo (Technion, Israel Institute of Technology)

##### II 協賛

###### 1. 計測自動制御学会関西支部・システム制御情報学会若手研究発表会 (2019/1/21)

###### 2. 計測自動制御学会 第 6 回制御部門マルチシンポジウム (2019/3/6-9)

###### 3. ISCIE・SICE チュートリアル講座 2019 (2019/8/8-9)

###### 4. The 51st ISCIE International Symposium on Stochastic Systems Theory and Its Applications (2019/11/1,2)

###### 5. 第 62 回自動制御連合講演会 (2019/11/8-10)

###### 6. システム制御情報学会セミナー 2019 -次世代ヘルスケアを支える情報システム- (2019/11/15)

#### Non-Technical Meetings

#### Chapter 役員会

###### 1. 第 1 回役員会 (2019/3/8)

###### 2. 第 2 回役員会 (2019/9/12)

### 【2020 年活動計画】

2020 年は、主催・共催行事の開催を検討する他、例年通り下記の学会に協賛をする予定。

###### 1. 計測自動制御学会 第 7 回制御部門マルチシンポジウム (2019/3/2-5)

###### 2. ISCIE・SICE チュートリアル講座

###### 3. The 52nd ISCIE International Symposium on Stochastic Systems Theory and Its Applications

###### 4. 第 63 回自動制御連合講演会

###### 5. システム制御情報学会セミナー

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/css/>

## 1. IES (Industrial Electronics Society) Japan Joint Chapter

【2019年活動報告】

### Technical Meetings

#### I. 主催/共催

1. 講演会(Industrial Application Society, Power Electronics Society と合同主催)

演者:河村 篤男 氏(横浜国立大学)

演題:超高効率な DC-DC および DC-AC 電力変換器に関する調査

年月日/会場:2019年1月25日 奈良学園大学 登美ヶ丘キャンパス

出席者数:97名

2. 電気学会 半導体電力変換・モータドライブ合同研究会(共催)

年月日/会場:2019年1月25, 26日 奈良学園大学 登美ヶ丘キャンパス

発表件数:57件

出席者数:146名

3. パワーエレクトロニクス学会 第227回研究会(共催)

年月日/会場:2019年4月14日 中央電気倶楽部

発表件数:4件

出席者数:94名

4. パワーエレクトロニクス学会 第228回研究会(共催)

年月日/会場:2019年6月29日 神戸大学

発表件数:4件

出席者数:49名

5. パワーエレクトロニクス学会 第229回研究会(共催)

年月日/会場:2019年8月3日 岡山理科大学

発表件数:5件

出席者数:32名

6. パワーエレクトロニクス学会 第230回研究会(共催)

年月日/会場:2019年10月26日 大阪電気通信大学

発表件数:8件

出席者数:60名

7. パワーエレクトロニクス学会 第231回研究会(共催)

年月日/会場:2019年12月21日 立命館大学

発表件数:34件

出席者数:119名

## II. 協賛

1. スマートエネルギーセミナー「再生可能エネルギーの経済的な自立～ブロックチェーン、トータンエコノミー、国土強靱化、ローカルVPP、電力融通、地産地消～」(主催:大阪工業大学, 芝浦工業大学, 福岡スマートハウスコンソーシアム, 横浜スマートコミュニティ, 一般社団法人 DELTA, 電気学会ローカルVPPを目指す分散エネルギー技術調査委員会)  
年月日/会場:2019年1月31日 東京ビッグサイト  
発表件数:15件  
出席者数:187名
2. the 2019 IEEE 6th International Conference on Industrial Engineering and Applications (ICIEA)(主催:IEEE Singapore Section E Chapter)  
年月日/会場:2019年4月12日 早稲田大学 国際会議場  
発表件数:約250件  
出席者数:約260名
3. 電気学会 産業応用部門大会  
(主催:電気学会)  
年月日/会場:2019年8月20日～8月22日/長崎大学  
発表件数:633件  
出席者数:1343名
4. Smart Energy Japan West 2019 スマートエネルギーセミナー  
(主催:大阪工業大学/芝浦工業大学/福岡スマートハウスコンソーシアム /横浜スマートコミュニティ/一般社団法人 DELIA/電気学会 ローカルVPPを目指す分散エネルギー技術調査委員会)  
年月日/会場:2019年8月27日 マイドームおおさか 8階 第1・2会議室  
発表件数:13件  
出席者数:185名

### Non-technical Meetings

1. 第1回役員会  
年月日/会場:2019年4月13日/ 中央電気倶楽部  
出席者数:3名
2. 第2回役員会  
年月日/会場:2019年12月21日/ 立命館大学 びわこ・くさつキャンパス  
出席者数:4名

## **Chapter 支援費利用事業**

1. IEEE Industrial Electronics Society Japan Joint Chapter Young Engineer Award (2019年4月13日実施)

IEEE IES Japan Joint Chapter が共催して 2018 年に開催されたパワーエレクトロニクス学会定例研究会で発表された論文の中から、35 歳以下の若手によるもの 1 件の優秀な発表者に対して IEEE Industrial Electronics Society Japan Joint Chapter Young Engineer Award を授与し、副賞として図書カード 1 万円分を授与した。

主旨: (B)若手獲得・育成の企画、利用支援費 1 万円

内訳:副賞(1 万円)／件×1 件

2. IEEE Industrial Electronics Society Japan Joint Chapter 若手優秀発表賞 (2019年12月21日実施)

IEEE IES Japan Joint Chapter が共催し 12 月に開催したパワーエレクトロニクス学会定例研究会～若手のための研究発表会～において、発表された論文の中から、35 歳以下の若手によるもの 2 件の優秀な発表者に対して IEEE Industrial Electronics Society Japan Joint Chapter 若手優秀発表賞を授与し、副賞として図書カード 1 万円分を授与した。

主旨: (B)若手獲得・育成の企画、利用支援費 2 万円

内訳:副賞(1 万円)／件×2 件

### **【2020 年活動計画】**

2020 年は、1 月 24 日に IEEE IES Japan Joint Chapter, IEEE IAS Japan Chapter, PELS Japan Chapter 合同主催で、講演会(講演者:清水 敏久 教授, 首都大学東京)の開催を予定している。また、パワーエレクトロニクス学会と共催で、4 月、6 月、8 月、10 月、12 月に定例研究会の開催が予定されている。

また、例年通り以下の表彰を行う計画である。

1. 2020 IEEE Industrial Electronics Society Japan Joint Chapter Young Engineer Award

IEEE-IES Japan Joint Chapter が毎回共催しているパワーエレクトロニクス学会定例研究会(12 月の研究会は対象から除外する)の満 35 歳以下(ただし発表時点において)の最優秀論文 1 件の発表者に対して IEEE Industrial Electronics Society Japan Chapter Young Engineer Award を授与する。

2. 2020 IEEE Industrial Electronics Society Japan Joint Chapter 若手優秀発表賞

IEEE-IES Japan Joint Chapter が共催して 12 月に開催されるパワーエレクトロニクス学会定例研究会では学生・若手技術者によりポスター形式で 30 件程度の発表会が行われている。その中の優秀発表 2 件の発表者に対して IEEE Industrial Electronics Society Japan Chapter 若手優秀発表賞を授与する。

これらの活動については下記の Web サイトで広報を行う。

URL <http://www.ieeeiesjapanchapter.blogspot.jp/>

## m. MAG (Magnetic Society) Kansai/Shikoku Joint Chapter

【2019 年活動報告】

### Technical Meetings

#### I. 主催/共催

1. IEEE DL 講演会 (主催)  
年月日/会場：2019 年 3 月 6 日 大阪府立大学 なかもずキャンパス  
発表件数：1 件 (Hyunsoo Yang 教授, National University of Singapore)  
出席者数：35 名
2. IEEE DL 講演会 (主催)  
年月日/会場：2019 年 3 月 18 日 大阪府立大学 なかもずキャンパス  
発表件数：1 件 (Justin M. Shaw 博士, National Institute of Standards and Technology, Boulder, Colorado, USA)  
出席者数：16 名
3. IEEE DL 講演会 (主催)  
年月日/会場：2019 年 5 月 24 日 大阪大学 吹田キャンパス  
発表件数：1 件 (Victorino Franco 教授, University of Seville, Spain)  
出席者数：18 名
4. IEEE DL 講演会 (主催)  
年月日/会場：2019 年 6 月 18 日 大阪大学 吹田キャンパス  
発表件数：1 件 (Hari Srikanth 教授, University of South Florida)  
出席者数：20 名
5. Workshop on "Chiro-Optical Effects in Nanomaterials", IEEE Kansai/Shikoku Joint Sections Magnetics Society Chapter (共催)  
年月日/会場：2019 年 11 月 15 日 大阪府立大学 なかもずキャンパス  
発表件数：3 件  
【講師 1】 Alexander Govorov 教授, Ohio University, USA  
University of Electronic Science and Technology of China, China  
【講師 2】 Gil Markovich 教授, Tel Aviv University, Israel  
【講師 3】 Malcolm Kadodwala 教授, University of Glasgow, UK  
出席者数：65 名
6. IEEE Kansai/Shikoku Joint Sections Magnetics Society Chapter 講演会 (主催)  
年月日/会場：2019 年 11 月 30 日 大阪大学 吹田キャンパス  
発表件数：招待講演 2 件、学生ポスター発表 13 件  
出席者数：31 名

7. Magnetism Symposium, IEEE Kansai/Shikoku Joint Sections Magnetism Society Chapter (共催)

年月日/会場：2019年12月5日-6日 大阪大学 中之島センター

発表件数：14件

出席者数：61名

**Non-technical Meetings**

1. 第1回役員会

年月日/会場：2019年3月15日 九州大学

出席者数：2名

2. 第2回役員会

年月日/会場：2019年6月18日 大阪大学

出席者数：3名

3. Joint chapter meeting with Germany chapter

年月日：2019年7月5日

会場：Helmholtz-Center Dresden-Rossendorf, Dresden, Sachsen, Germany

出席者数：5名

4. 第3回役員会

年月日/会場：2019年11月22日 大阪大学

出席者数：8名

**【2020年活動計画】**

2020年は、前年度に引き続き、関西・四国圏の磁性関連研究者を対象に、技術講演会の開催や、学生・若手研究者を主たる対象とした研究会を開催するなど、技術情報の提供や会員獲得に向けた活動を実施する。具体的には、10-12月に基調講演と学生のポスター発表会をメインとする第6回関西四国磁性研究会を開催する。同会では、学生に奨励賞を授与する予定である。これ以外に、DL講演会、関西・四国地区での研究会の主催を企画する。DL講演会では国内の他のMAG chapterとの連携強化の取組みが始まっている。ドイツなど国際的なchapter間の協力活動を継続し、若手研究者の交流やキャリア支援やDL推薦などを協議する。また、他学協会の研究会などを共催・協賛する予定である。特にIEEEと関わりがある日本磁気学会の研究会との共催を検討している。併せて会員への情報提供のため、HPの充実を図る。

URL <http://ieemag.wixsite.com/kansai-shikoku>

## V. 関西支部会員数

### 1. 会員数推移状況（12月末調査時点）

表. 年ごとの会員数と内訳

Year	H	LF	F	LS	SM	LM	M	AM	GSM	StM	Total
2010	0	36	50	7	102	45	1,561	89	204	162	2,256
2011	0	40	48	9	110	50	1,559	105	233	159	2,313
2012	0	44	38	11	118	59	1,587	82	317	78	2,334
2013	1	45	35	14	113	64	1,604	62	288	129	2,355
2014	1	46	31	20	116	69	1,594	60	271	99	2,307
2015	1	45	34	18	127	75	1,556	55	255	93	2,259
2016	1	48	30	23	126	82	1,547	61	258	82	2,258
2017	1	48	28	24	124	84	1,520	61	290	52	2,232
2018	1	41	27	23	126	88	1,539	59	266	49	2,219
2019	1	46	22	24	140	92	1,494	52	291	69	2,231

**Grade code** H: Honorary member, LF: Life Fellow, F: Fellow,  
 LS: Life Senior member, SM: Senior Member,  
 LM: Life Member, M: Member, AM: Associate Member,  
 GSM: Graduate Student Member, StM: Student Member

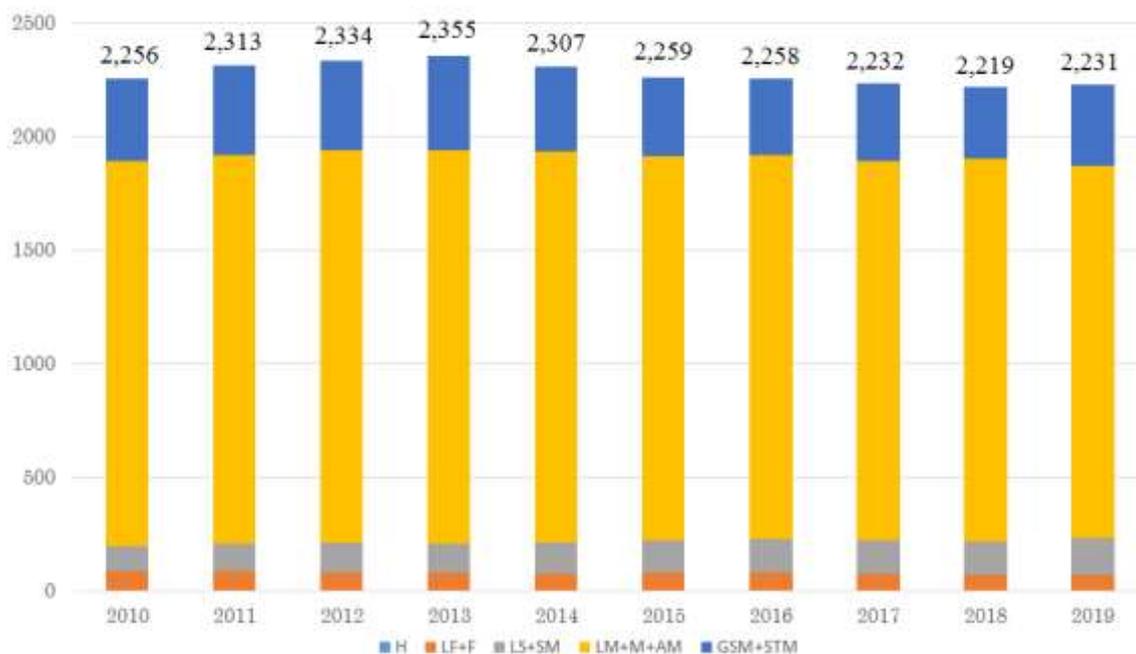


図. 会員区分の推移

## 2. ソサイエティ別会員数

[2019年12月31日更新]

◎ 幹事Chapter

Society Code	Society Chapter Name	Established Year	関西支部メンバー数	Chapter 構成	札幌	仙台	信越	東京	名古屋	関西	四国	広島	福岡
SP-01	Signal Processing Society Tokyo Joint Chapter	1982		東京Joint	○		○	○	○		○	○	○
	Signal Processing Society Sendai Chapter	2013		仙台単独		○							
	Signal Processing Society Kansai Chapter	2007	140	関西単独						○			
BT-02	Tokyo/Japan Sections Broadcast Technology Society Joint Chapter	1983	3	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○
AP-03	Antennas and Propagation Society Tokyo Chapter	1971-1972		東京Joint	○	○	○	○					
	Antennas and Propagation Society Nagoya Chapter	2006		名古屋単独					○				
	Antennas and Propagation Society Kansai Chapter	2006	70	関西Joint						○	○	○	
	Antennas and Propagation Society Fukuoka Chapter	2005		福岡単独									○
CAS-04	Circuits and Systems Society Japan Joint Chapter	1971-1972		東京Joint	○	○	○	○	○			○	○
	Circuits and Systems Society Kansai Chapter	2002	113	関西単独						○			
	Circuits and Systems Society Shikoku Chapter	2006		四国単独							○		
	Circuits and Systems Society Fukuoka Chapter	2001		福岡単独									○
NPS-05	Nuclear and Plasma Sciences Society Japan Chapter	1981	30	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○
VT-06	Vehicular Technology Society Tokyo Chapter	1979	35	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○
R-07	Reliability Society Japan Joint Chapter	1983	14	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○
CE-08	Consumer Electronics Society East Joint Japan Chapter	1983		東京Joint	○	○	○	○	○				
	Consumer Electronics Society West Joint Japan Chapter	2008	23	関西Joint						○	○	○	○
IM-09	Instrumentation and Measurement Tokyo/Japan Sections Joint Chapter	1973	10	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○
AES-10	Aerospace and Electronic Systems Society Japan Chapter	1991	13	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○
CIS-11	Computational Intelligence Society Japan Chapter	2004	91	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○
IT-12	Information Theory Society Japan Chapter	1981	39	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○
IE-13	Industrial Electronics Society Japan Chapter	1981	63	関西Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○
TEM-14	Technology and Engineering Management Society Japan Chapter	1997	10	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ED-15	Electron Devices Society Japan Chapter	1971-1972		東京Joint	○	○	○	○	○			○	○
	Electron Devices Society Kansai Chapter	2000	163	関西単独						○			
	Computer Society Japan Chapter	1967		東京Joint	○	○	○	○	○		○	○	
C-16	Computer Society Kansai Chapter	2006	351	関西単独						○			
	Computer Society Fukuoka Chapter	2004		福岡単独									○
	Microwave Theory and Techniques Society Japan Chapter	1958		東京Joint	○	○	○	○			○	○	○
MIT-17	Microwave Theory and Techniques Society Nagoya Chapter	2010		名古屋単独					○				
	Microwave Theory and Techniques Society Kansai Chapter	2006	136	関西単独						○			
	Engineering in Medicine and Biology Society Japan Chapter	1970	113	東京Joint	○	○	○	○	○	○			
EMB-18	West Japan Chapter of Engineering in Medicine and Biology	2007		福岡Joint							○	○	○
	Communications Society Japan Chapter	1973		東京Joint	○		○	○	○			○	○
	Communications Society Sendai Section Chapter	2012		仙台単独		○							
COM-19	Communications Society Kansai Chapter	2006	179	関西単独						○			
	Ultrasonics, Ferroelectrics and Frequency Control All Japan Joint Chapter	1986	37	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○
EP-21	Electronics Packaging Society Japan Chapter	1994	32	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○
OE-22	Oceanic Engineering Society Japan Chapter	1996	9	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○
CS-23	Control Systems Society Japan Chapter	1981		東京Joint	○	○	○	○	○		○	○	○
	Control Systems Society Kansai Chapter	2011	89	関西単独						○			
RA-24	Robotics and Automation Society Japan Joint Chapter	1990	161	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○
E-25	Education Society Japan Chapter	1981	14	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○
PC-26	Professional Communication Society Japan Chapter	2006	1	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○
EMC-27	Electromagnetic Compatibility Society Japan Joint Chapter	1980	26	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	Electromagnetic Compatibility Society Sendai Chapter	2001		仙台単独		○							
SMC-28	Systems, Man, and Cybernetics Society Japan Chapter	1974	98	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	Systems, Man, and Cybernetics Society Hiroshima Chapter	2005		広島単独									○
GRS-29	Geoscience and Remote Sensing Society All Japan Joint Chapter	1982	19	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○
SIT-30	Society on Social Implications of Technology Japan Chapter	1983	2	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○
PE-31	Power & Energy Society Japan Joint Chapter	1964	52	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○
DEI-32	Dielectrics and Electrical Insulation Society Japan Chapter	1986	13	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○
MAG-33	Magnetics Society Tokyo Chapter	1977		東京単独				○					
	Magnetics Society Sendai/Sapporo Joint Chapter	2005		仙台Joint	○	○							
	Magnetics Society Shin-etsu Chapter	2015		信越単独			○						
	Magnetics Society of Japan Nagoya Chapter	2008		名古屋単独					○				
	Kansai/Shikoku Joint Sections Magnetics Society Chapter	2015	36	関西Joint						○	○		
Fukuok/Hiroshima Joint Sections Magnetics Society Chapter	2018		福岡Joint								○	○	
IA-34	Industry Applications Society Japan Chapter	1973	63	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○
PEL-35	Power Electronics Society Japan Joint Chapter	1990	82	東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	Power Electronics Society Fukuoka Chapter	2011		福岡単独									○
PHO-36	Photonics Society Japan Chapter	1986		東京Joint	○	○	○	○	○		○	○	
	Photonics Society Kansai Chapter	2007	69	関西単独						○			
	Photonics Society Fukuoka Chapter	2011		福岡単独									○
SSC-37	Solid-State Circuits Society Japan Chapter	1998		東京Joint	○	○	○	○	○		○	○	○
	Solid-State Circuits Society Kansai Chapter	2001	113	関西単独						○			
ITS-38	Intelligent Transportation Systems Society Tokyo Chapter	2014	19	東京単独				○					
	Intelligent Transportation Systems Society Nagoya Chapter	2013		名古屋単独					○				
PSE-43	Product Safety Engineering Society		4										
CEDA-44	Council on Electronics Design Automation All Japan Joint Chapter	2014		東京Joint	○	○	○	○	○	○	○	○	○

     関西単独           関西Joint           他支部Joint  
     # 他支部Jointで関西支部会員数が50名を超えるもの

「◎」幹事 Section(活動の主体、Rebate の受領及活動報告義務)、「○」Joint Chapter に参画している Section 12 名以上で、Chapter の設立が可能。なお、関西 Section が参画する Chapter のみを一覧

## VI. 2019年 会計報告

収入の部

		当初計画		実績	
◆IEEE Entity間勘定	1,764,007	内容	1,887,478	内容	
・ Section Rebate (IEEE本部より)	1,543,993	・ 2018年実績から: \$ 14,036.3 (Chapter Rebate&Bonus: \$ 3,310, AG Rebate&Bonus: \$ 810 含む)	1,442,952	5/2 Section Rebate \$13,071.75 5/30 Affinity Group Rebate \$220 TTB108.56(12/30現在)	
▲Chapter Rebate支払	▲ 364,100	( \$ 200X13)X1.1+ \$ 75X6= \$ 3310	▲ 338,934	7/9実績	
▲Affinity Group Rebate支払	▲ 89,100	( \$ 200X3)X1.1+ \$ 75X2= \$ 810	▲ 23,654		
・ SB Rebate	99,000	\$900 (2018年から算出)	54,063	4/1 \$498(12/30 TTB108.56)	
▲SB Rebate支払	▲ 99,000		▲ 54,366	5/17	
・ Section Rebate 小計	1,090,793		1,080,061		
・ Section Assessment 2019 前後期	4,354,758	2018年実績から 前期:\$38,581.65,後期:\$1,007.06	4,049,213	2019実績 前期:\$36,611.59 ¥3,996,887- 後期:\$482 TTB108.56(12/30現在)	
▲Japan Council拠出金+手数料	▲ 3,701,544	Assesment入金85% (2019年から15%はSectionに還元)	▲ 3,438,489	Assesment入金85% (2019年から15%はSectionに還元)	
・ Section Assesment小計	653,214	2019年から15%還元残高	607,382	2019年から15%還元残高	
・ LMAG Fund	10,000	Fund関連			
・ WIE Fund					
・ YP Fund	10,000	Fund関連			
・ AG Fund 小計	20,000				
	165,000	R10 Section Incentives for 2018 Activities (\$1,500) (2018分)	162,840	1/4 \$1,500 TTB108.56(12/30現在)	
			37,195	CB口座利息\$331.69 TTB108.47(12/27現在)	
・ その他小計			200,035		
◆Japan CouncilからのSection支援 (Fund)	596,000		455,062		
・ Section支援(SB) (2018年分)	88,000	英語プレゼン大会(2018年)の半額支援	88,000		
・ Section支援(WIE)	100,000	Kansai WIE Symposiumの半額支援	93,183		
・ Section支援(SB)	130,000	英語プレゼン大会の半額支援	46,459		
・ Section支援(SB)	30,000	プレーンストーミングコンテスト大会の半額支援	30,000		
・ Section支援	100,000	Friend Award 授賞式 (会場費、交通費、懇親会費) の半額支援	100,000	Friend Awardに関する費用248,039円の半額補助 (ただし、上限100,000円)	
・ Section支援 (総会メダル代、研究奨励)	148,000	2019年2月実施 ・ YP賞メダル (¥12,000/個、3個) ・ 関西支部メダル (¥10,000/個、6個) ・ 学生研究奨励賞 (¥20,000/人、10人) の半額支援	97,420	メダル製作費用 (94,840円) および学生研究奨励賞副賞費用 (100,000円) の総額 (194,840円) の半額 (97,420円)	
小計	2,360,007		2,342,540		
◆2018年からの繰越金	3,517,476	¥口座 ¥1,778,717- \$口座 \$15,665.91 TTB110.99(1/1現在)	3,466,508	¥口座 ¥1,778,717- \$口座 \$10,000- TTB107.27で¥口座へ送金 \$口座 \$5,665.91 TTB108.56(12/30現在)	
合計	5,877,483		5,809,049		

支出の部	当初計画		実績	
◆会合・AWARD・活動	2,567,000	内容	2,153,952	内容
・関西支部活性化費	610,000	・MAW(仙台)のAG派遣費用支援 ¥210,000 (各AG 1名) ・Japan SYWL への学生派遣 (2名予定) ¥100,000 ・新規活性化活動 ¥300,000	524,052	MAW実績 ¥150,016.- SYWL実績 ¥69,490.- 博士キャリア ¥74,682.- シニア昇格 ¥57,000.- 黒部視察 ¥36,800.- 韓国LMAG ¥136,064.-
・総会開催費	500,000	会場費、資料代、懇親会費など	575,526	資料¥51,419.-、会場費¥160,200.-、 懇親会費¥335,554.-、消耗品等¥28,353.-
▲懇親会費徴収	▲200,000	総会懇親会 (懇親会参加費入金分) (5,000円×40名想定)	▲136,000	
Friend Award 授賞式	200,000	会場費、交通費、懇親会費 (6社+IEEE本部関係者)	0	総会開催費に含む
・講演会	50,000	TPCの講演者への謝礼: 5名分 会場費 (技術講演会 5回を計画: 第106~110回)	100,000	4/13 ¥10,000.- 6/3 ¥60,000.- 9/10 ¥30,000.- 12/20 ¥0.- (辞退)
・理事会費	250,000	会場代他 (5回を予定)	215,804	2/4 第1回 ¥55,946.- 5/29 第3回 ¥50,271 8/26 第4回 ¥46,487.- 12/18 第5回 ¥63,100.-
・Committee会合費	200,000	各WS、2回、SAC等	131,638	5/17 MDC&SAC&YP JointWS ¥69,030.- 6/30 LMAG&SAC連携会議 ¥9,544.- 12/23 MDC&SAC&YP JointWS ¥53,064.-
・メダル、研究奨励賞	192,000	学生研究奨励賞(¥100,000/5名分): 2019年総会用 YP賞メダル(¥42,000/3個分): 2020年総会用 関西支部メダル(¥50,000/5個分): 2020年総会用	260,320	2/22 総会 (学生奨励賞) ¥100,000.- 12/27 YP賞メダル 2個 ¥25,192.- 関西支部メダル14個 ¥135,128.-
・Student Branch支援	405,000	SB Chairミーティング: ¥25,000、 研究交流会: ¥100,000 英語プレゼン大会: ¥250,000 プレストーミングコンテスト: ¥30,000	221,733	4/19 SB Chairミーティング ¥17,624.- 10/11 英語プレゼン ¥92,148.- 11/24 プレストーミング ¥82,696.- 12/7 年末交流会 ¥29,265.-
・LMAG支援費	150,000	技術講演会開催費および準備費用、 LMAGサロン、LMAG賞(新設) (年初AG Rebate, Fund除く)	56,644	6/21 講師謝礼、交通費、手土産 英文添削 ¥22,160.-
・WIE支援費	200,000	WIE Symposium、WIE/YP joint WS (年初AG Rebate, Fund除く)	204,235	9/28
・YP支援費	10,000	YP WS (年初AG Rebate, Fund除く)	0	
◆事務経費	22,000		0	
・外部監査費	0	外部監査不要		
・事務用品費	2,000	ファイル等	0	
・旅費	10,000	各種旅費支援	0	
・通信費	10,000	郵送費、宅急便等	0	
◆雑費	25,000		36,028	
・取引手数料、他	25,000	為替手数料、振込手数料 (理事会会場費振込、CB口座より送金、AG等への支援 費振込み他)	36,028	振り込み手数料
小計	2,614,000		2,189,980	
◆2020年への繰越	3,263,483		3,619,069	CB口座(\$) \$21749.35(TTB108.56) 国内口座(¥) ¥1,257,960.-
合計	5,877,483		5,809,049	

## VII. 2020年 予算

収入の部

		当初計画	説明
◆IEEE Entity間勘定	1,995,567	内容	
・ Section Rebate (IEEE本部より)	1,617,000	・ 2019年実績から : \$ 13,000 (Chapter Rebate&Bonus: \$ 3,310, AG Rebate&Bonus: \$ 810 含む) ・ R10Rebate : \$2,000	
▲Chapter Rebate支払	▲ 356,818	( \$ 200X13)X1.1+ \$ 75X6= \$ 3,310	
▲Affinity Group Rebate支払	▲ 87,318	( \$ 200X3)X1.1+ \$ 75X2= \$ 810	
・ SB Rebate	54,063	2019年実績から算出	
▲SB Rebate支払	▲ 54,063		
・ Section Rebate 小計	1,172,864		
・ Section Assessment 2020前後期	4,047,356	2019実績並み	
▲Japan Council拠出金+手数料	▲ 3,440,253	Assesment入金85% (2019年から15%をSectionに還元)	
・ Section Assesment小計	607,103	15%還元残高	
・ LMAG Fund	0	Fund関連 2019実績無 & 今後予定無	
・ WIE Fund	0	Fund関連 2019実績無 & 今後予定無	
・ YP Fund	0	Fund関連 2019実績無 & 今後予定無	
・ AG Fund 小計	0		
その他	215,600	R10 Section Incentives for 2019 Activities (\$2,000)	
・ Section支援	50,000	博士課程のキャリアについて語る会	
・ Section支援	50,000	シニアメンバー昇格のための勉強会	
・ Section支援 (総会メダル代、研究奨励)	148,000	2020年2月実施 ・ YP賞メダル (¥12,000/個、3個) ・ 関西支部メダル (¥10,000/個、6個) ・ 学生研究奨励賞 (¥20,000/人、10人)の半額支援	
小計	2,243,567		
◆2019年からの繰越金	3,619,069	CB口座(\$) \$21749.35(TTB108.74) 国内口座(¥) ¥1,257,960.-	
合計	5,862,636		

支出の部

活動計画		2020年計画		2019年当初計画		2019年実績予想	
項目	内容	金額	備考	金額	備考	金額	備考
支部活性化費	MAW 派遣旅費	150,000	10月 広島 AGから各1名	210,000		150,016	仙台3名
	Japan SYWL 学生派遣 (1名)	50,000	10月 広島 1名	100,000		69,490	仙台1名
	R10 SYWL 学生派遣 (2名)	300,000	8月 タイ 2名				
	博士のキャリアを語る会 (YP)	100,000	9~10月	300,000	新規活性化活動	74,682	
	シニア会員昇格 講演会 (NC)	100,000	9~10月			57,000	9/30開催
	Milestone設備視察	0	計画無し			36,800	
	TENCON 2020 学生派遣 (SB)	100,000	11/16-18@大阪、2名				
	Section Congress 派遣旅費	0	8/21-23@オタワ (IC予備)				
	韓国LMAG 派遣旅費	0	2020実施予定無			136,064	
	小計		800,000		610,000		524,052
総会開催費	資料印刷費	600,000	一式	700,000	総会・授賞式合計	51,419	
	会場費					160,200	
	懇親会費					335,554	
	消耗品等					28,353	
	▲懇親会費徴収	-140,000	4000円×35人	-200,000	5000円×40人	-136,000	4,000円×34人
小計		460,000		500,000		439,526	
講演会開催費 (TPC)	講師謝礼	180,000	3万円×6人	50,000	1万円×5人	100,000	4回×4人
	小計		180,000		50,000		100,000
理事会費	会場代他	300,000	5万円×6回開催	250,000	5回開催	55,946	第1回(2/4)
						50,271	第3回(5/29)
						46,487	第4回(8/26)
						63,100	第5回(12/18)
	小計		300,000		250,000		215,804
Committee会合費	MDC/SAC/YP JWS	150,000		200,000		122,094	5/17 69,030 12/23 53,064
	LMAG/SB/SAC 連携会議					9,544	6/30
	小計		150,000		200,000		131,638
メダル・研究奨励賞	学生研究奨励賞	140,000	7名分(2020総会分)	100,000	5名分	100,000	5名分 (2019総会分)
	YP賞メダル	37,788	3名分(2021総会分)	42,000	3名分	25,192	2名分 (2020総会分)
	関西支部メダル	202,692	15個(2021総会分)	50,000		135,128	14個 (2020総会分)
	賞状	15,000	20枚(支出2月)	0			
	小計		395,480		192,000		260,320
SB 支援費	SB Chairミーティング	25,000	4~5月	25,000		17,624	
	英語プレゼン大会	100,000	10~11月	250,000		92,148	
	ブレイク-ニング コフレ	90,000	9~11月	30,000		82,696	
	研究交流会	100,000	7月	100,000		0	開催無し
	年末交流会	30,000	12月	0		29,265	
	小計		345,000		405,000		221,733
LMAG 支援費※	技術講演会開催・準備費用	40,000	手土産、講師謝礼	150,000		2,160	6/21分
	英文添削	20,000	春頃依頼			20,000	6/21分
	東アジアLMAG会議 (仮称) 参加費	50,000	旅費 (春)			0	
	LMAGサロン等活動費	8,000	事務費用を含む			2,484	
	SBプレスト大会	22,000	LMAG賞、講師謝礼			22,000	
	SB英語プレゼン大会	10,000	LMAG賞			10,000	
	小計		150,000		150,000		56,644
WIE 支援費※	WIE Symposium	250,000	ホステス・デザイナ50k含	200,000		204,235	・会場使用料他: ¥63,718.- ・交通費 : ¥31,880.- ・講師謝礼 : ¥39,000.- ・意見交換会 : ¥51,769.- ・事前準備 : ¥17,868.-
	WIE/YP joint WS						
	小計		250,000		200,000		204,235
YP支援費※	YP WS	0		10,000		0	
	小計		0		10,000		0
事務経費・雑費	外部監査費	0	(外部監査不要)	0		0	(外部監査不要)
	事務用品費	0	ファイル等	2,000		0	ファイル等
	旅費	0	各種旅費支援	10,000		0	各種旅費支援
	通信費	0	郵送費、宅急便等	10,000		0	郵送費、宅急便等
	取引手数料、他	30,000		25,000		36,028	手数料(12/27時点)
	小計		30,000		47,000		36,028
2020年活動費 計		3,060,480		2,614,000		2,189,980	
◆2021年への繰越		2,802,156					
合計		5,862,636					

※ 年初AG Rebate,Fund除く

## VIII. IEEE 関西支部 BYLAWS 修正

【修正箇所】

### ARTICLE IV --- Management

#### Section 1

The management of the Section shall be by the Section Executive Committee which shall consist of the elected officers, the Past Section Chair and the following:

Standing Committee Chairs,

~~representatives of Chapters,~~ ←削除

representatives of Affinity Groups,

such other members appointed by the Section Executive Committee,

and such other members appointed by the Section Chairman.

The number of voting members elected must be at least one greater than those appointed.

## IX. 受賞者

### IEEE 関西支部 Young Professionals 賞受賞者 (2名)

西川 広記	立命館大学
西尾 理志	京都大学

### IEEE 関西支部学生研究奨励賞受賞者 (7名)

土井 龍太郎	大阪大学
陳 俊	大阪大学
五島 剛	大阪大学
高橋 拓海	大阪大学
早川 諒	京都大学
廖 望	高知工科大学
吉田 聖也	神戸大学

IEEE 関西支部メダル受賞者 (新 Senior member)

(20名)

蛭原 義雄	九州大学
平井 慎一	立命館大学
李 周浩	立命館大学
Junichi Nakagawa	—
中川 健一	三菱電機
西 竜志	大阪大学
安田 清和	大阪大学
篠原 真毅	京都大学
松川 真美	同志社大学
上田 哲三	パナソニック
舟木 剛	大阪大学
小林 和淑	京都工芸繊維大学
新熊 亮一	京都大学
新谷 道広	奈良先端科学技術大学院大学
八木 直美	姫路獨協大学
佐藤 高史	京都大学
小西 毅	大阪大学
濱口 睦	シャープ
林 優一	奈良先端科学技術大学院大学

IEEE 関西支部メダル受賞者 (歴代貢献者)

(2名)

中村 行宏	京都大学名誉教授
片桐 滋	同志社大学

IEEE 関西支部 新 Fellow

(2名)

井上 晃	三菱電機
田畑 修	京都先端科学大学

(敬称略)

以降、参考情報

## **I. IEEE KANSAI SECTION BYLAWS**

In all instances, the Institute of Electrical and Electronics Engineers (IEEE) Bylaws, Constitution, Policy and Procedures manual, and the Member and Geographic Activities (MGA) Operations Manual will prevail when there is a conflict between these documents and Section Bylaws.

### **ARTICLE I --- Name and Territory**

#### Section 1

This organization shall be known as the Kansai Section of the IEEE.

#### Section 2

The territory of the Kansai Section, as approved by the MGA Board, includes the following: Osaka, Kyoto, Hyogo, Nara, Shiga, and Wakayama prefectures, JAPAN.

(The districts with the postal codes starting with 52 through 67 inclusive)

### **ARTICLE II --- Officers**

#### Section 1

The elected officers of the Kansai Section shall be the 4 Executive officers: Chair, Vice Chair, Secretary and Treasurer. The offices of the Secretary and Treasurer may be combined.

#### Section 2

The terms of office of the elected officers shall be for 2 years.

#### Section 3

Terms of office will begin on January 1 but, in any case, the outgoing officers will continue until their successors are duly elected and take office. The consecutive period of service shall not exceed two years.

#### Section 4

Any vacancy occurring during the year shall be filled by a majority vote of the Section Executive Committee.

### **ARTICLE III --- Standing Committee**

#### Section 1

The Standing Committees of the Section will be as follows:

- Membership Development Committee
- Nominations Committee
- Student Activities Committee
- Technical Program Committee
- Awards Committee
- Chapter Operations Committee

#### Section 2

The Chair of the Standing Committees will be appointed by the Section Chair with the approval of the Section Executive Committee, and their terms will expire on the end-of-term date of the Section Chair.

#### Section3

Each Committee Chair will appoint his/her Committee members, with the approval of the Section Executive Committee, and their terms will expire on the end-of-term date of the Committee Chairs'.

#### Section4

Duties of the Standing Committees will be as generally described in the IEEE Section Operations Guide.

### **ARTICLE IV --- Management**

#### Section 1

The management of the Section shall be by the Section Executive Committee which shall consist of the elected officers, the Past Section Chair and the following:

Standing Committee Chairs,  
representatives of Affinity Groups,  
such other members appointed by the Section Executive Committee,  
and such other members appointed by the Section Chairman.

The number of voting members elected must be at least one greater than those appointed.

#### Section 2

A majority of the Section Executive Committee shall constitute a quorum, provided that delegates elected by the Section membership are at least one greater in number than delegates appointed to the Committee.

#### Section 3

A majority of the Section Executive Committee present shall be necessary in the conduct of its business.

#### Section 4

Meetings of the Section Executive Committee ordinarily will be held at least twice a year and will be called by the Section Chair or by a request of three members of the Section Executive Committee.

#### Section 5

The fiscal year of the Section shall be the calendar year.

### **ARTICLE V --- Nomination and Election of Officers**

#### Section 1

A nominating Committee consisting of three members, not then officers of the Section,

shall be appointed by the Section Chair with the approval of the Section Executive Committee.

#### Section 2

The nominations of the Nominating Committee will be announced to the Section membership and, following this, a minimum of 28 days allowed for additional nominations by petition. To be valid, the petition must be signed by 2% or more voting membership.

#### Section 3

If only one nomination is made for each office, the election will be made at the Annual Meeting. If additional nominations are made, election will be by ballot, mailed to the membership with the vote counted by a Tellers Committee appointed by the Section Chair.

#### Section 4

The timetable for this procedure is as follows:

Appointment of Nominating Committee:	by August 31
Announcement of Nominations:	by September 30
Close nominations by petition:	by October 31
Hold election:	by November 30

#### Section 5

A plurality of the votes cast shall be necessary for election.

### **ARTICLE VI --- Business Meeting**

#### Section 1

In order to transact business at a Section meeting, at least 3 members must be present to constitute a quorum.

### **ARTICLE VII --- Finances**

#### Section 1

All expenditures of Section funds must be approved by Section Treasurer or Chair.

#### Section 2

Without prior authorization of the IEEE Executive Committee, Section funds can be used only for normal operations of the Section.

#### Section 3

The treasurer shall be authorized to draw funds as approved by the Section Executive Committee.

### **ARTICLE VIII --- Amendments**

#### Section 1

Proposals for amendments to these Bylaws may originate in the Section Executive Committee or by a petition signed by 20% or more voting members.

## Section 2

Amendments to or revocation of these Bylaws shall be in accordance with the IEEE Bylaws, Policies, and the MGA Operations Manual.

## IEEE 関西支部メダル授与規定

関西支部は、関西支部活動への積極的な参画を動機付けること、及び、Member Grade の昇格を動機付けることを目的とし、また、関西支部活動のアピールを行なうことにより関西支部の活性化に繋げることを目的として、IEEE 関西支部メダルを下記の者に授与する。

1. 関西支部に所属する新 Fellow で、Senior Member 昇格時に IEEE 関西支部メダルを贈呈されなかった者
1. 総会の前年の 1 年間の間に関西支部で新 Senior Member に昇格した者
2. 支部長が推薦し、理事会において承認された者

また、下記の希望者に対しては、支部長が推薦し、理事会において承認された上で、有償にて授与することができる。但し、その金額は IEEE 関西支部メダルを造幣局から購入した最新の購入単価とする。

1. 関西支部に所属する Fellow 又は Senior Member の希望者で、Fellow 昇格時又は Senior Member 昇格時において IEEE 関西支部メダルを贈呈されなかった者
2. 関西支部内部の運営に貢献のあった者
3. 上記以外の特別な理由で理事会の承認を得た者

本規程は、施行/改定承認日から適用する。

2008 年 9 月 17 日改定

2010 年 6 月 23 日改定

2012 年 1 月 4 日改定

2014 年 5 月 9 日改定

2017 年 1 月 1 日改定

## IEEE 賞状用紙支給に関する規定について

IEEE Japan Council の Award 登録を行った Chapter、Affinity Group、Student Branch の表彰に対し、IEEE の賞状に台紙を支給することができる。

### 1. 手続きの流れについて

手続きは、

- ① IEEE Japan Council の Award 登録手続きに従い、登録を行う。
- ② IEEE Japan Council の Award 登録用紙(Excel)、賞状の必要枚数、賞状送付先住所氏名を添え、賞状授与申請のメールを関西支部事務局(sec-kansai@ieee-jp.org)に送付する。なお、申請は会合の2週間以上前とする。  
メールタイトルは、「【IEEE 賞状授与申請】[組織名]必要に応じて備考」としていただきたい。
- ① 内容を確認し、問題がなければ Award Committee より、所定の住所へ賞状を発送する。
- ② 授与組織は会合開催後、IEEE 本部の Meeting Reporting System への登録を行った後に、関西支部事務局にメール送付する。

### 2. 適用日

- ・本規程は、施行/改定承認日から適用する。

2016年10月20日施行

2017年1月1日改定

## IEEE 関西支部 Chapter 予算補てんに関する規定について

Chapter が活動を行う際に、関西支部からの Rebate、Society からの支援では活動費がまかなえない場合に、関西支部が Chapter の不足額の補てんについては、原則として以下のとおりとする。

### 1. 予算について

年初に Chapter 支援総額を予算化し、その予算の中で運用する。

なお、予算総額については、2月に開催される総会で承認をする。予算額は、その年の支部の活動、為替レートなどにより変動する可能性がある。

1年間の Chapter あたりの補てん額の上限は 3 万円とする。なお、予算総額に応じ、上限額は変わることがある。

### 2. 手続きの流れについて

手続きは、

- ① Chapter より、会合の名称、開催日、開催場所、開催趣旨、想定参加人数などを添え、現在の Chapter 資金、会合にかかる想定費用、支援内容を記載した支援申請のメールを関西支部 Chapter Operation Committee (COC) に送付する。なお、申請は会合の 3 週間以上前とする。
- ② COC は、規定の適合性をチェックし、適合している場合には、Treasurer および Section Chair の承認を得る。非適合の場合で、Chapter からの強い要請がある場合には、理事会にメールベースなどで承認の可否判断の依頼をする
- ③ Chapter に承認の可否を連絡する。
- ④ Chapter は会合開催後、IEEE 本部の Meeting Reporting System への登録を行った後に、各種領収書、請求書の PDF を関西支部事務局にメール送付するとともに、請求書の原本を関西支部事務局に送付する。
- ⑤ 関西支部は Meeting Reporting System の記載内容、領収書の内容、請求書の内容を確認後、Chapter に所定の金額を振り込む。

### 3. 補てん可能な内容について

#### ① 講演者への謝礼

原則、IEEE 会員の講演者については、謝礼を遠慮していただいているが、謝礼をしなければ、有用な事業が実施できない場合に、支援を行う。

- i) Chapter が「主催」もしくは「共催」する事業に限定する
- ii) 謝礼額は、原則として、Chapter ごとの差が出ないように、1 名 1 万円とする
- iii) 支援を受ける事業については、Chapter のホームページ等で Chapter 会員に周知する。
- iv) 想定参加人数は、10 名以上であること。

② 役員会合に対する支援

Chapter の役員会合に対しては、Japan Council からは支援が受けられないが、役員  
の力が Chapter 活動に大きく影響するため、役員会合に対しても一定の支援を行うこと  
にする。ただし、飲食に対する支援は、1 回/年とする。

- i) 会合の参加者は 3 名以上
- ii) IEEE 本部の Meeting Report が作成されていること
- iii) 支援額は、飲食代の 1/2 以下とする
  - ・1 名あたりの支援額の上限を 2,000 円(税抜き)とする
  - ・会合の終了時間が 19 時以降の場合に支援を行う

4. 要件を満たさない場合で支出を行う場合

- ・事前に理事会の承認を得ること

5. 適用日

- ・本規程は、施行/改定承認日から適用する。

2016 年 9 月 23 日施行

2017 年 1 月 1 日改定

## IEEE 関西支部 SB 支援に関する規定について

関西支部が Student Branch (SB) 活動に対する支援については、原則として以下のとおりとする。

### 1. 予算について

- ① 1 事業の支援額の上限は 3 万円とする。なお、旅費は除く。
- ② 支部の予算状況に応じて運用し、支援を保証するものではない。

### 2. 手続きの流れについて

手続きは、

- ① SB より、会合の名称、開催日、開催場所、開催趣旨、想定参加人数などを添え、支援内容を記載した支援申請のメールを関西支部 Student Activities Committee (SAC) に送付する。なお、申請は会合の 3 週間以上前とする。
- ② SAC は、規定の適合性をチェックし、適合している場合には、Treasurer および Section Chair の承認を得る。非適合の場合で、SB からの強い要請がある場合には、理事会にメールベースなどで承認の可否判断の依頼をする
- ③ SB に承認の可否を連絡する。
- ④ SB は会合開催後、活動報告レポートの関西支部への提出及び SB のホームページへの活動報告の登録を行った後に、領収書の PDF を関西支部事務局にメール送付するとともに、領収書の原本を関西支部事務局に送付する。  
なお、活動報告のレポートには、
  - ・開催日時、場所
  - ・参加人数および可能であれば、IEEE 会員の参加人数
  - ・イベントの規模がわかる写真
  - ・副賞などの支援を行った場合には、受賞者の写真を掲載することが望ましい。SB のホームページには活動報告のレポートを掲載するなどに対応してもよい。
- ⑤ 関西支部は Meeting Reporting System の記載内容、領収書の内容、請求書の内容を確認後、SB 口座に所定の金額を振り込む。

### 3. 支援内容について

SB の活動に対し、

- ① IEEE 会合に付随して開催されること。
- ② IEEE 本部の Meeting Report が作成されていること
- ③ SB のホームページに会合の報告が公開されること

の条件が満たされ、かつ、各項目記載の条件を満たす場合に、以下のような支援を行う

- ④ 会合に付随する飲食の支援について  
以下の要件を満たす場合に、費用の 1/2 もしくは、2,000 円(税抜)/人の低い額を支援する。
  - i) IEEE 会合に参加している人数が 5 名以上
- ⑤ 会合に参加する際の旅費の支援について  
以下の要件を満たす場合に、旅費交通費を支援する。
  - i) IEEE 会合に参加している人数が 5 名以上

ii) 運営側、もしくは発表者として参加していること。単なる参加者には支援を行わない。

支援対象者の役割一覧を提出すること

⑥ 発表会などの副賞について

以下の要件を満たす場合に、副賞を支援する。

- i) IEEE 会合に参加している人数が 10 名以上
- ii) 副賞を受け取れる人数は参加者の 10%以下
- iii) 副賞は現金以外(図書券など)とする
- iv) 副賞の上限は 10,000 円/人とする

4. 要件を満たさない場合で支出を行う場合

- ・ 事前に理事会の承認を得ること

5. 適用日

- ・本規程は、施行/改定承認日から適用する。

2016 年 12 月 20 日施行

## IEEE 関西支部理事会役員に関する規定について

IEEE 関西支部理事会及び支部長が指名する理事役員として、以下のメンバーを関西支部の理事役員とする。

### 1. Past 役員

Past Vice Chair, Past Secretary, Past Treasurer, Past Committee Chair についても、Chair もしくは理事会で指名した場合には、理事役員とする。

### 2. Vice Chair, Secretary 及び Treasurer 立候補予定者

現行 Vice Chair, Secretary 及び Treasurer の残り任期が 1 年以下の期間に、Chair もしくは理事会で指名した場合に、次期 Vice Chair, Secretary 及び Treasurer 立候補予定者を理事役員とする。なお、立候補予定者は、次期役員として立候補することを前提とする。また、候補予定者が役員となる時には、Past Vice Chair, Past Secretary, Past Treasurer は原則として役員を退任する。

### 3. 適用日

本規定は、2018 年 1 月 31 日から適用する。

2018 年 1 月 30 日理事会承認

## 参考

### By Laws より

such other members appointed by the Section Executive Committee, and such other members appointed by the Section Chairman.

### MGA Operation Manual/9.4 Sections/D. Section Management

1. The Section affairs shall be managed by an Executive Committee consisting of the elected officers. The number of voting members elected must be at least one greater than those appointed. Chapter and Affinity Group Chairs, as elected by their membership, are considered "elected" official, as is the Past Section Chair.

※その他の Past Vice Chair, Past Committee Chair 等については、記載がない

2. All Chapters and Affinity Groups in the Section shall have voting representation either individually or collectively on the Section Executive Committee, and the Subsection Chairs shall be ex-officio members with voting power.

3. Sections may have Student representation on the Executive Committee through appointment of one Student member and/or the Chair of the Section Student Activities Committee. It is recommended that every Section have a Section Student Representative (SSR), who is a voting member of the Section Committee, in Sections where there is at least one Student Branch.

4. A quorum is required for administrative meetings. A majority of the voting members the committee shall constitute a quorum. These meetings shall be conducted in accordance with Robert's Rules of Order (latest version) as the standard parliamentary authority.

5. Reasonable efforts should be made to notify all members of Section meetings and activities. Methods of communication could be, but are not limited to, email distributions (in keeping with IEEE email policies), postings on Section Web sites, social media venues, or hard copy distributions.

関西支部では、Chair, Vice Chair, Secretary, Treasurer, MDC Chair, NC Chair, SAC Chair, TPC Chair, AC Chair, COC Chair の 10 名 + LMAG Chair, WIE Chair, YP Chair, Past Chair の合計 14 名が選挙で選ばれた役員/理事。従って、役員/理事総数は 27 名以下。なお、Past Chair も退任する場合、Secretary と Treasurer が兼任の場合には、役員/理事会総数は 25 名以下。

基本的には、Elected 扱いの Past Chair が残っていれば、他のすべての役職の Past もしくは立候補予定者が入っても、必ず、選挙で選ばれた役員は過半数を超えるが、Past Chair の代わりに Chair 立候補予定者となってしまうと、どれかの役職の Past もしくは立候補予定者が理事会に入らない状態にならないければ、選挙で選ばれた役員数が過半数を超える状態にならないため、注意が必要。

(参考) 関西支部各チャプターにおける国際会議 Sponsorship の承認手続きについては、以下の JCCOC の手続きに従うこととする。

## 国際会議 Sponsorship の承認手続きについて

2018年12月18日

2019年02月14日 改訂

2019年10月31日 改訂

Japan Council Chapter Operations Committee Chair 福田

Tokyo Section Chapter Operations Committee Chair 奥村

Japan Council Secretary 滝嶋

### 1. Chapter が関わる Sponsorship の承認手順

(0) IEEE 側の担当者 (Chapter 等) は、共催/協賛の承認手続きに先だち次を済ませておく。

- ・ 営利団体への共催、協賛は、原則、行わない、ことの確認

IEEE Policy 10.1.2 項参照

[https://www.ieee.org/content/dam/ieee-org/ieee/web/org/about/whatis/ieee\\_policies.pdf](https://www.ieee.org/content/dam/ieee-org/ieee/web/org/about/whatis/ieee_policies.pdf)

- ・ 事前に相手先の組織を確認し、実態不明の組織との「共催」とならないことを確認
- ・ Organizational Unit (OU)間の協議で、Financial Co-sponsorship か Technical Co-sponsorship かを決定
- ・ 関係するOU 間で責任分担を明確にして、MOU を作成

(1) 国際会議主催者がIEEE Conference Application からweb 登録後、IEEE MCE より、該当するOU (Section) Officer に承認依頼が届くので、Section Secretary は、Section 事務局に送付し採番(#1)を依頼し、事務局はSection COC (Chair)に検討依頼を行う。

#1 事務局通し番号、会議名、MOU 記載の会議番号、TCS/FCS の識別、関連Chapter、関連支部、IEEE MCE からの送付日、審議期間、審議状況等を記録する。

(2) Section COC(Chair)は該当するChapter に対して、確認、審議を行う。

複数のSection のChapter からなるJoint Chapter が該当する場合、または、その依頼の場合には、Main Section だけでなくJoint のすべてのSection のChair, Secretary (#2), (当該Section に存在する場合) COC とも期限を定めて審議を行う。

協議時間は、1 週間を目安としながら、案件ごとにSection のCOC (Chair)が設定する。

#2 Main Section 以外のSection の Chair, Secretary は、審議結果を依頼元の Section COC (Chair) に電子メールにて報告する。この際に、本部web での結果登録を行っては「ならない」。

審議においては、Section COC(Chair)は以下を行う。

① TCS の場合は、TCS-Fee の負担組織を確認する。TCS-Fee は、Conference の主催者、Chapter/Section、その両者の分担の3 つのケースがある。あらかじめ設定した期限までにSection から非承認回答がなければ、承認として処理する。

\* IEEE のTechnical Co-Sponsorship Fee (TCS-Fee) が2019年1月1日より導入され、IEEE Geo Unit とTCS を締結している国際会議は1,000ドルに加え、IEEE Xplore 掲載費として15ドル/Paper の費用負担を行う。なお、Xplore に掲載しない場合でも、定額1,000ドルを負担する。

【参考】 MGA Operations Manual : 10.4Conference involvement, C-2 TCS Fee  
[https://mga.ieee.org/images/files/MGA\\_Operations\\_Manual\\_02.2018.pdf](https://mga.ieee.org/images/files/MGA_Operations_Manual_02.2018.pdf)

② FCS の場合は、支部負担がないことを担保するため、次のことを確認する。

- ・ 「関係Section は一切の金銭負担は負わないこと」をChapter に伝えるとともに、
- ・ 「会議が最悪ケースでも赤字予算にならないこと」を確認し、Section の確認に移ることとする。
- ・ FCS については、関係全Section からの承認回答を以て承認とする。

(3) Section Secretary は、COC の答申結果に基づき、次の処理を行う。

- ・ TCS の場合は、Section Secretary が承認(web)して、後日、Section 理事会で報告する。
- ・ FCS の場合は、Section の理事会でメール審議を行い、承認後にSection Secretary が承認(web)を行う。

(4) 費用負担が発生する場合の注意点

- ・ Chapter/Section が費用負担を行う場合（負担率(%)が0でない場合）、負担分の収支の確認のため予算案を同時にChapter から提出いただく。
- ・ 国際会議主催者が IEEE Conference Application からweb 登録を行う前に、事前にChapter/Section に費用負担の承認を求める場合がある。その場合も同様に、上記の手続きにより対応する。承認を得たのち、正式にweb 登録してもらう。

【参考】 IEEE Policy 10.1.4 項

[https://www.ieee.org/content/dam/ieee-org/ieee/web/org/about/whatis/ieee\\_policies.pdf](https://www.ieee.org/content/dam/ieee-org/ieee/web/org/about/whatis/ieee_policies.pdf)

## 2. Chapter が関係しないSection でのSponsorship の承認手順

国内学会等からのSection 宛の協賛依頼については、Section 理事会のメール審議で協賛の可否を審議し、承認後に依頼元へ事務局から回答する。

## 3. MOU を必要としないChapter でのSponsorship 処理について

以下の場合、MOU を必要としない。

この場合Chapter 内で可否を審議判断し、所属Section 等には結果の報告を行う。

- (1) 会議の財政規模（収入または支出の多い方）が25,000USD を超過する会議において、当該Chapter の担当内容が、人的支援、広報支援、IEEE の名称使用のいずれかまたはすべての範囲内である場合  
(運営責任、財政責任(#3)、財政支援(#4)、物品貸与を伴わない場合)
  
- (2) 会議の財政規模が25,000USD 以下の会議において、当該Chapter の担当内容が、物品貸与、人的支援、広報支援、IEEE の名称使用のいずれかまたはすべての範囲内である場合  
(運営責任、財政責任(#3)、財政支援(#4)を伴わない場合)

#3 運営収支が支出過剰になった場合に財政負担を行うような責任

#4 運営資金の一部または全部を支出するまたは物品を供出する責任

### ※ 注意点

- ・ いずれの場合にも、営利団体への共催、協賛等は、原則、行わない。
- ・ 役務や責任に対する認識相違を防止するため、依頼元からはIEEE 側の役務や責任を明記した依頼状を受領することとし、協賛等の可否判断の審議に供することとする。
- ・ 上記の諸条件で規定できない何等かの責任を負う場合には、責任の内容によってはMOU を締結することが好ましい場合がある。判断に迷う場合には、支部、或いはJCCOCに問い合わせる
- ・ Logo の使用に当たってはIEEE Policy 6.3.2 項、10.1.17 項、12.1 項に準拠のこと  
[https://www.ieee.org/content/dam/ieee-org/ieee/web/org/about/whatis/ieee\\_policies.pdf](https://www.ieee.org/content/dam/ieee-org/ieee/web/org/about/whatis/ieee_policies.pdf)

【参考】 MOU の要否判断例

(A) 財政規模が 25,000USD を超過する会議

	運営 責任	財政 責任	財政 支援	物品 貸与	人的 支援	広報 支援	IEEE 名称使用
ケース 1 (多くの場合「主催」相当)	○	○	○	○	○	○	○
ケース 2 (多くの場合「共催」相当)	○	○	○	○	○	○	○
ケース 3 (多くの場合「協賛」相当)				○	○	○	○
ケース 4 (多くの場合「協力」相当)					○	○	○
ケース 5 (多くの場合「後援」相当)						○	○

ケース 4 およびケース 5 では MOU 不要と判断

※ 「共催」、「協賛」等用語に基づいた判断ではなく、実質的な提供役務の範囲で判断

(B) 財政規模が 25,000USD 以下の会議

	運営 責任	財政 責任	財政 支援	物品 貸与	人的 支援	広報 支援	IEEE 名称使用
ケース 1 (多くの場合「主催」相当)	○	○	○	○	○	○	○
ケース 2 (多くの場合「共催」相当)	○	○	○	○	○	○	○
ケース 3 (多くの場合「協賛」相当)				○	○	○	○
ケース 4 (多くの場合「協力」相当)					○	○	○
ケース 5 (多くの場合「後援」相当)						○	○

ケース 3、4 およびケース 5 では MOU 不要と判断

※ 「共催」、「協賛」等用語に基づいた判断ではなく、実質的な提供役務の範囲で判断

以上

2020年 IEEE 関西支部連絡先  
〒532-0005 大阪府 大阪市 淀川区 三国本町 2-13-31  
関西電力株式会社  
電力システム技術センター変電グループ 内  
IEEE 関西支部事務局  
e-mail: sec-kansai@ieee-jp.org  
<http://www.ieee-jp.org/section/kansai/>  
<http://www.ieee-jp.org/section/kansai/english/>